

# 授業科目一覧

## 2. 外国語系科目

### (1) 英語

英語科目についての全般的説明

総合英語A I

総合英語B I

総合英語B I

総合英語B I

総合英語B I

総合英語B I

総合英語C I

中級英語 I

中級英語 I

中級英語 I

中級英語 I

上級英語A I

上級英語A I

上級英語B I

上級英語B I

上級英語C I

技術英語 I

総合英語A II

総合英語B II

総合英語B II

総合英語B II

総合英語B II

総合英語B II

総合英語C II

中級英語 II

中級英語 II

中級英語 II

中級英語 II

上級英語A II

上級英語A II

上級英語B II

上級英語B II

上級英語C II

技術英語 II

### (2) ドイツ語

ドイツ語授業科目について

基礎ドイツ語AI

基礎ドイツ語AII

基礎ドイツ語B

基礎ドイツ語B

基礎ドイツ語B

選択ドイツ語A

選択ドイツ語A

選択ドイツ語A

選択ドイツ語A

選択ドイツ語A

選択ドイツ語B I

選択ドイツ語B I・C1

選択ドイツ語B II

選択ドイツ語B II

### (3) 中国語

基礎中国語AI

基礎中国語AI

基礎中国語AI

基礎中国語AII

基礎中国語AII

基礎中国語AII

基礎中国語AII

基礎中国語B

基礎中国語B

基礎中国語B

選択中国語A

選択中国語A

選択中国語BI

選択中国語BII

選択中国語BII

### (4) ロシア語

選択ロシア語AI

選択ロシア語AII

### (5) 韓国(朝鮮)語

選択韓国(朝鮮)語AI

選択韓国(朝鮮)語AII

## 英語科目についての全般的説明

### 総合英語について（必修科目：1、2年次）

#### 1. 目的および目標

1、2年次の必修科目である総合英語は、高校までに習得した英語の能力を、全ての技能について高め、国際的な視野を持つ教養豊かな社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を身に付けることを目的とする。

総合英語A I/A II（1年次）については、全担当教員が英語母語話者とする。会話力を中心に4技能を習得することを目指しており、その目標の例の一つは英語圏における日常会話である。きめ細かな対応が必要となるため、入学時にプレイズメント・テストを行い、能力別少人数クラス編成を行っている。

総合英語B I/B II（1年次）は、総合英語A I/A IIを補完すべく、読解力を中心に4技能をまんべんなく学ぶ。目標の例の一つは英語で発行された新聞などの印刷物を自助努力をもって理解する能力を獲得することである。

総合英語C I/C II（2年次）は、総合英語A I/A IIやB I/B IIにおける学習内容を深め、レベルを高めることを目標としている。具体的な役割は2年次以降に開講されている（一部1年次より）上級英語などへ繋がる科目であり、大学生として必要最低限のコミュニケーション能力を身につけることを目標としている。各学科で開講されている英語科目や英語を使用した科目にも繋がる科目である。

#### 2. 科目の内容

総合英語A（会話を中心として4技能を学ぶ。作文なども特徴の一つ。）

総合英語B（読解を中心として4技能を学ぶ。聴解力、作文能力、あるいは発信能力を並行して行うこともある。）

総合英語C（総合英語A、Bを発展させた内容。具体的内容は担当教員によりさまざまなものを用意している。）

#### 3. 履修上の注意

- 1) 科目の履修には、原則としてその総授業時間数の3分の2以上出席しなければならない。（九州工業大学工学部学修細則第11条2）
- 2) 開講年次に全て履修することを原則とする。未履修となった場合には、次年次に同一曜日、時限の同一教員による授業を履修することを原則とする。再履修の場合、時間割上の制限が出てくるため、科目の開講年次に単位修得することを強く勧める。なお、教員によって再履修の条件が異なる場合があるので、必ず当該教員に事前に相談すること。
- 3) 編入生の場合、時間割上履修可能な時限を選び、必ず当該教員に相談すること。
- 4) 総合英語A I/A IIについては、入学当初に行われるプレイズメント・テストを必ず受けること。また受けそこねたものは、必ず総合英語Aコーディネーター（ラクストン先生）へ相談すること。
- 6) 必修科目、演習形式という性質上、定期試験のみでの成績評価は行わない。授業への参加態度、提出物なども主な評価要素となる。

### 中級英語について（選択科目：1年次以上）

#### 1. 目的および目標

総合英語A、B、Cと同時進行で履修できる選択科目であり、英語に意欲的な学生に対してさらなるメニューを提供することを主眼としている。レベルとしては総合英語と上級英語群をむすぶ科目である。英語が苦手な学生から、総合英語でできない内容を求める学生まで幅広く対応している。

#### 2. 科目の内容

多様な授業内容のメニューを用意しており、リメディアル的学習、視聴覚授業、海外語学研修準備講座、等を随時展開している。外国人と日本人教員の双方が担当する。履修希望学生は各教員のシラバスを参照し、自分の興味とレベルにあった授業を選択する。

#### 3. 履修上の注意

- 1) 同一科目の複数履修は認めない。（前期に中級英語Iを2コマなど）
- 2) 演習形式のため、定期試験のみの評価はしない。

### 上級英語について

（選択科目：2年次以上、条件付で1年次以上。下記参照）

#### 1. 目的および目標

総合英語で培った能力を更に伸ばすのが上級英語の目的である。国際的コミュニケーション能力を高め、文化的背景についての教養を深めることを目標としている。

#### 2. 科目の内容

これらはすべて例であり、詳細な内容についてはそれぞれの科目のシラバスを参照すること。

上級英語A（会話、コミュニケーション能力など。英語母語話者が担当）

上級英語B（読解、作文能力、コミュニケーション能力など）

上級英語C（読解、聴解、批判的思考能力など）

技術英語（工業英語など、専門的知識を英語で身に付ける。）

#### 3. 履修上の注意

- 1) 1年次で履修する（履修可能科目は、上級英語AI、AII、上級英語BI、BIIのみ）学生のみTOEIC500点のスコア（あるいは同レベルの他の英語検定試験スコア）が必要である。2年次より履修する学生は、総合英語AとBの単位を取得済みであることを条件とする。また、履修希望者が多い場合、人数制限を行う。担当教員の指示に従うこと。
- 2) 演習形式のため、定期試験のみの評価はしない。
- 3) 同一科目の複数履修は認めない。（半期に上級英語Aを2コマ、など）
- 4) 鳳龍賞によるオールド・ドミニオン大学（アメリカ合衆国）夏季語学研修の単位振替は、履修していない上級英語科目分をもって行う。
- 5) TOEICスコア（600点以上）で上級英語科目への単位振替をおこなっている。詳しくは学生便覧を参照のこと。  
（註）大学院においても英語（ロング、ラクストン）、言語学特論（村田）、国際関係概論（八丁）、批判的テキスト理解（虹林）を開講している。こちらを聴講（履修は不可）する希望の学部生は担当教員に連絡すること。

## 総合英語A I Comprehensive English AI

担当学年：1年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1単位 必修・選択の別：必修

担当教員 Ian Ruxton, Robert Long, Mark Gibson, Bruce Haendel, Mike Mackay, Chris O'Sullivan, Gareth Steele, Raymond Stubbe, Andrew Watt

## 1. 概要

Spoken English is becoming daily more essential for citizens of our rapidly globalizing world. The main aim is to teach students to speak and understand spoken English. This course is entirely taught by native speakers.

## 2. キーワード

speaking, listening, writing, reading, communication, culture

## 3. 到達目標

- (a) To introduce freshmen students to native-speaker led listening and speaking practice in English
- (b) To review some basic grammatical structures, develop vocabulary, and examine the use of common expressions
- (c) To practice the writing of English paragraphs and compositions
- (d) To develop the confidence of students about spoken English and encountering foreign cultures

## 4. 授業計画

1. Placement test
2. Meeting new people, self-introductions.
3. Describing people.
4. Talking about family.
5. Talking about daily activities.
6. Frequency adverbs.
7. Talking about likes and dislikes.
8. Describing locations.
9. Giving directions.
10. Describing places.
11. Talking about past activities.
12. Talking about jobs.
13. Presenting yourself.
14. Review
15. Test

## 5. 評価方法・基準

Attendance at a minimum of 2/3 of classes, classwork, homework and an examination at the end of each semester.

## 6. 履修上の注意事項

3分の2の出席数がないと履修資格を失う（工学部学修細則第8条2）Wednesday students will be sorted into classes based on performance in a placement test at the beginning of the year.

必ず一年生の間にこの必修単位を取ってください！！（後は専攻で忙しくなるから。。。）Make sure you get this credit in the first year, as you will be very busy later with your major.

## 7. 教科書・参考書

- (1) Marc Helgesen, et al. : New English Firsthand (Lingual House)
- (2) Instructors may use other approved textbooks at their discretion.
- (3) A monolingual (English - English) dictionary is strongly recommended.

## 8. オフィスアワー等

Wednesdays, 12-2.30pm.  
ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

## 総合英語B I Comprehensive English BI

担当学年：1年次 担当学科：機械知能工学科・マテリアル工学科  
・総合システム工学科

学期：前期 単位数：1単位 必修・選択の別：必修

担当教員 大野 瀬津子

## 1. 概要

この授業では、様々なスタイルの英語の文章を読む。パラグラフ・リーディングの練習を通じ、文章の内容だけでなく、構造を理解する力を養う。同時に、リスニングと音読を取り入れ、英語のコミュニケーション能力の向上を目指す。

## 2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、音読

## 3. 到達目標

- 1) 英語の文章を構造で把握する姿勢を身に付ける。
- 2) 世界の多様な英語に対応できるリスニング力を養う。
- 3) 英語学習に音読を取り入れる姿勢を養う。

## 4. 授業計画

1. ガイダンス
2. Topic 1 The Slippery Case of the Missing Butter
3. Topic 2 By Bike round Australia(I)
4. Topic 3 By Bike round Australia(II)
5. Topic 4 From Why Write?
6. Topic 5 Success Story Starts with a Goat (I)
7. Topic 6 Success Story Starts with a Goat (II)
8. Topic 7 Hydrogen Beer
9. Topic 8 Change of Heart (I)
10. Topic 9 Change of Heart (II)
11. Topic 10 DNA Testing Is Unsettling Paternity Law
12. Topic 11 From The Day Dreamer
13. まとめ
14. 音読テスト
15. 期末テスト

## 5. 評価方法・基準

原則として、活動参加40%、音読テスト10%、期末テスト50%とする。総合評価で60点以上を合格とする。

## 6. 履修上の注意事項

全体出席数が3分の2以上ないと、履修資格を失う。  
授業への積極的な参加を必要とする。

## 7. 教科書・参考書

- ・Kazuki Kazumi Snapshots of Life Today (朝日出版社)
- ・Miles Graven World Interviews: Improving Listening and Speaking Skills (成美堂)

## 8. オフィスアワー等

研究室前に掲示。

総合英語B I Comprehensive English BI

担当学年：1 年次 担当学科：建設社会工学科・電気電子工学科・  
マテリアル工学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 村田 忠男

1. 概要

前期は、まず、国際的な共通言語となった英語についての認識を高めることからスタートする。不十分な修得のままである英語発音の再訓練をその後の一貫した柱とし、それに並行して、「朝日キーワード 時事英語2008」から「国際、暮らし、スポーツ、政治」を勉強し、社会各方面への関心を高め、英語力、語彙力を高める。高校までに学習した英語を、社会での実際の使用に耐えるよう、さらにステップアップさせるべく、様々なITを利用する勉強法や国際感覚を高めるための刺激を与えるようにしたい。各自の国際度を高めるための方策を一緒に考えたい。

2. キーワード

国際英語、英語発音、時事英語

3. 到達目標

英語マスメディアやIT英語情報を利用できる英語力の基礎作り。

4. 授業計画

1. 国際英語のすすめ I
2. 国際英語のすすめ II
3. 発音記号；母音の発音法 I
4. 発音記号；母音の発音法 II
5. 発音記号；子音の発音法（破裂音）
6. 発音記号；子音の発音法（摩擦音）
7. 発音記号；子音の発音法（破擦音）
8. 発音記号；子音の発音法（鼻音、接音）
9. 連結発音 I
10. 国際記事
11. 暮らし記事
12. スポーツ記事
13. 政治記事
14. 復習質問他
15. 試験

5. 評価方法

・基準授業への積極的参加を50%、期末試験を50%とする。  
活発な反応や参加をする学生には高い評価が与えられる。  
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

毎回の予習は、必ず声を出して行うこと。新語の記憶は、口（発音）と手（綴）の両方で入力しておくことを薦める。特に不正確な発音記憶は、有害ですらある。

7. 教科書・参考書

1. 村田忠男、田端敏幸：「新版」カプセル英語発音（CD 2 枚付き）（三修社）
2. 朝日キーワード 時事英語2008（朝日新聞社）
- 3.（参考書）インターネット接続したパソコン

8. オフィスアワー等

基本的には月曜 2：30－4：00と水曜 1：00－2：30。  
講義時間の前後に訪問希望者はアポイントメントを取ると、上記以外に双方の都合のいい時間を設定できる。  
murata@dhs.kyutech.ac.jpで、面接予約を事前にとることも可能。

総合英語B I Comprehensive English BI

担当学年：1 年次 担当学科：機械知能工学科・電気電子工学科・  
応用化学工学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 田吹 昌俊

1. 概要

本講義では、英語の多角的運用能力を高める目的で読み、聞き、話すという観点から英語を扱う。特に英文の速読、即解ができる能力の養成を目指す。また、ヒアリング、ディクテーションも併せて行う。題材としては現代社会に生きる我々にとって最も意識しなければならない環境問題と社会問題に焦点を当てる。

2. キーワード

環境問題、社会問題、時事問題

3. 到達目標

英語を通じ環境や社会問題に関する知識を得ることにより、こうした問題を扱った時事英語を読んでも一応の理解が出来る言語能力と知識を習得する。

4. 授業計画

年間を通じて、reading、discussion や writing に8割程度、listening comprehension や dictation 演習に2割程度の講義時間を割り当てる。

1. Kazaa and Music Piracy
2. Kazaa and Music Piracy
3. Are We Grown up Yet?
4. Are We Grown up Yet?
5. Systems is Washing Ph.D Brainpower
6. Systems is Washing Ph.D Brainpower
7. Diesel Polluting Trucks Outlawed in Tokyo
8. Diesel Polluting Trucks Outlawed in Tokyo
9. Key Ocean Fish Species Disappearing
10. Key Ocean Fish Species Disappearing
11. Male Chauvinism Still Dominates Sumo World
12. Male Chauvinism Still Dominates Sumo World
13. Crazy Spoiled Youth
14. Crazy Spoiled Youth
15. 試験

5. 評価方法・基準

- (1) 試験－60%
  - (2) 授業での小テスト－20%
  - (3) 授業での発表やレポート－20%
- なお60点以上を合格とする

6. 履修上の注意事項

授業への準備不足のために質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。  
英英辞書か英和辞書を携帯すること。  
模範解答の掲示及び解説については、オフィスアワー時に個別に行う。

3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

1. Tabuki・Long：Reflections on Social and Environmental Issues (Seibido)
2. Osamu Yamaguchi：Listening Pointer for the TOEIC Test (Seibido)

8. オフィスアワー等

木曜日 4 時限目  
（総合教育棟 4 階411）

## 総合英語B I Comprehensive English BI

担当学年：1 年次 担当学科：機械知能工学科・電気電子工学科・  
応用化学工学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 虹林 慶

## 1. 概要

情報の氾濫する現代社会にあって、英語学習も多岐に渡っている。本授業は、レベルの高い英語を読破していくことを目指す。学生にとっては、このテキスト読解を、英語運用能力の一つの基準として設定できるような授業にしている。いわば、大学生としてのリーディングの目標を定めている。

## 2. キーワード

生命倫理、異文化理解、科学、カルチュラル・リテラシー

## 3. 到達目標

本授業では、大学での英語教育という観点から、大学生として必要な英語読解能力の習得を、「世界のトップレベルの文献を、自助努力をもって読破可能なこと」と位置付け、難解なテキストに取り組んでいく。また同時にリスニング能力については、基本的な技能を確認しながら、比較的短いものを繰り返し聞くことで、全般的な能力の向上を目指す。大学生としてのレベルでは、このテキストを自分で読みこなすことができれば、必要充分である。到達目標を具体的に示すことで、学生の自主学習においても道標となれば幸いである。

## 4. 授業計画

1. Introduction
2. Thinks ... by David Lodge (1)
3. Thinks ... by David Lodge (2)
4. Locked in Place by David E. Levy (1)
5. Locked in Place by David E. Levy (2)
6. Why the Mind Is in the Head by Erich Harth (1)
7. Why the Mind Is in the Head by Erich Harth (2)
8. Why the Mind Is in the Head by Erich Harth (3)
9. Frankenstein by Mary Shelley (1)
10. Frankenstein by Mary Shelley (2)
11. Of Headless Mice ... and Men by Charles Krauthammer (1)
12. Of Headless Mice ... and Men by Charles Krauthammer (2)
13. The Signing by Stephen Dixon (1)
14. The Signing by Stephen Dixon (2)
15. Examination

\* 進行具合により、変更する場合もある。

## 5. 評価方法・基準

定期試験60%、授業中の作業等40%。積極的な発表などの参加点を考慮することもある。総合評価で60%以上を合格とする。

## 6. 履修上の注意事項

- ・原則として3分の2以上の全体出席数を履修資格とする。
- ・成績評価のフィードバックは模範解答の掲示、開示で行う。個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・授業態度の悪いものは総合評価より減点や、悪質な場合、除名とする。私語、内職、携帯電話の使用、厳禁。逆に積極的な発表などは、評価したい。難解なテキストのため、充分な予習、復習を必須とする。

## 7. 教科書・参考書

教科書：PRISM（研究社）

Welcome to the Listening World（金星堂）

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）

Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心がある人に）

Seiko, Sharp, Casioの電子辞書（英語専用モデル）はお勧めできます。

## 8. オフィスアワー等

火曜日 4 限（14:30～16:00）

（総合教育棟 4 階：S412）

## 総合英語B I Comprehensive English BI

担当学年：1 年次 担当学科：機械知能工学科・建設社会工学科・  
電気電子工学科・総合システム工学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 八丁 由比

## 1. 概要

一口に英語と言っても、読む、聞く、話すなどの技法の違いに加え、分野や情報媒体によっても英語の特徴が異なる。自分にとって最も必要な技法、あるいは最も親しみを感じるジャンルを見つけ、そこから取り組むことも1つの上達方法であると考え。本授業では、様々な種類の英語に触れ、その中から必要な情報を獲得・利用できるようになることを目指す。「精読」よりも「多読」を重視。ジャンルの最終回には、ライティングにも挑戦する。

## 2. キーワード

多種英語 異文化 時事問題

## 3. 到達目標

手段としての英語を発見し、自分の必要に応じて情報を獲得・楽しめるようになることを目指す。

## 4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション、サンプル・リーディング
- 第2回 歌詞の英語 I
- 第3回 歌詞の英語 II
- 第4回 歌詞の英語 III
- 第5回 新聞・雑誌の英語 I
- 第6回 新聞・雑誌の英語 II
- 第7回 新聞・雑誌の英語 III
- 第8回 新聞・雑誌の英語 IV
- 第9回 エッセイの英語 I
- 第10回 エッセイの英語 II
- 第11回 エッセイ・ライティング
- 第12回 スピーチ・プレゼンテーション I
- 第13回 スピーチ・プレゼンテーション II
- 第14回 スピーチ・プレゼンテーション III
- 第15回 総評

## 5. 評価方法・基準

平常点（70%）期末レポート（30%）

60点以上を合格とする。

## 6. 履修上の注意事項辞書を持参すること。

三分の二以上の出席が無い場合は、履修資格を失うので注意。成績が「不合格」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。

## 7. 教科書・参考書

プリントを配布する。

辞書

## 8. オフィスアワー等

オフィスアワー：研究室前の掲示を参照

研究室：総合教育棟 410

連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

## 総合英語C I      Comprehensive English CI

担当学年：2年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1単位 必修・選択の別：必修

担当教員 村田 忠男、田吹 昌俊、虹林 慶、八丁 由比、  
大野 瀬津子、非常勤講師 8名

### 1. 概要

総合英語AI、AII、総合英語BI、BIIを一年次で履修したことを前提とした科目である。さらに高いレベルの教授内容を提供する。大学生として必要なコミュニケーション能力が身につくことを目的に、4技能を鍛錬する。担当の教員はそれぞれバラエティに富む授業計画を用意している。

### 2. キーワード

履修年度開始の1ヶ月前にホームページに各教員担当授業分を掲載する。また、同内容をイントロダクションで配布する。

### 3. 到達目標

履修年度開始の1ヶ月前にホームページに各教員担当授業分を掲載する。また、同内容をイントロダクションで配布する。

### 4. 授業計画

1. イントロダクション

2～14. 履修年度開始の1ヶ月前にホームページに各教員担当授業分を掲載する。また、同内容をイントロダクションで配布する。

15. 定期試験

### 5. 評価方法・基準

履修年度開始の1ヶ月前にホームページに各教員担当授業分を掲載する。また、同内容をイントロダクションで配布する。

### 6. 履修上の注意事項

履修年度開始の1ヶ月前にホームページに各教員担当授業分を掲載する。また、同内容をイントロダクションで配布する。

### 7. 教科書・参考書

履修年度開始の1ヶ月前にホームページに各教員担当授業分を掲載する。また、同内容をイントロダクションで配布する。

### 8. オフィスアワー等

履修年度開始の1ヶ月前にホームページに各教員担当授業分を掲載する。また、同内容をイントロダクションで配布する。

## 中級英語 I      Intermediate English I

担当学年：全年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択

担当教員 Ian Ruxton

### 1. 概要

This course aims to introduce contemporary English through various media: newspapers, podcasts, vodcasts (video podcasts) and any other media available.

### 2. キーワード

media, audio, video, news, current affairs

### 3. 到達目標

1) To improve the listening and speaking ability of students

2) To deepen their understanding of current events in the world

### 4. 授業計画

1. Introduction

2. It's absolutely true!

3. Are you a morning person?

4. What's in a name?

5. Career paths

6. On the other hand

7. Corporate spying

8. Teamwork

9. Nice to meet you

10. Australia

11. Take it easy

12. Determination

13. Money matters

14. Revision

15. Final Test

### 5. 評価方法・基準

Tests are given twice a year, but participation in classes every week is also important. Pay attention to the following points:

a) prepare thoroughly for class

b) do writing exercises on your own

60点以上を合格とする

### 6. 履修上の注意事項

3分の2の出席数がないと履修資格を失う（工学部学修細則第8条2）

### 7. 教科書・参考書

教科書：Language to go—Intermediate (Pearson Longman 出版)

### 8. オフィスアワー等

Mondays 3–4pm

ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

## 中級英語 I Intermediate English I

担当学年：全年次 担当学科：全学科  
 学期：前期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択  
 担当教員 Robert Long

## 1. 概要

The class will focus on two aspects. The first aspect concerns students being able to effectively participate in various kinds of interviews, and group discussions. Students will be given in-depth practice in becoming familiar with typical interview questions, and adequately answering them, for KIT exchange programs like ODU and for Space University. Students will also be given some time to learn how to become better acquainted with technological and cultural issues relating to such programs. There will also be extensive practice given in summarizing students' research areas, and experiments, in addition, to having students make thoughtful assertions based on their data. Asking questions based on other students' presentations will also be a focus. The second aspect concerns students to being to discuss a wide variety of issues relating to Japanese culture and life. (The class outline for this aspect will be presented in two weeks).

## 2. キーワード

Presentations, interviews, job skills, intercultural discussions

## 3. 到達目標

Students are graded on their effort in completing weekly assignments and on their accuracy (weekly quizzes).

## 4. 授業計画

Presentation / Interviews Intercultural Aspect  
 Week 1 : Basic Interview questions; self introductions  
 Explaining Japanese Sports and clubs  
 Week 2 : Discussing specific research areas; summaries (1)  
 Explaining Japanese Music  
 Week 3 : Discussing specific research areas; summaries (2)  
 Explaining Japanese Food  
 Week 4 : Making assertions about one's research (1)  
 Explaining Japanese Handicrafts  
 Week 5 : Making assertions about one's research (2)  
 Explaining Japanese Holidays  
 Week 6 : Describing important engineers and their work  
 Explaining Japanese Games  
 Week 7 : Summarizing experiments that have been done  
 Explaining Japanese Cities and Places  
 Week 8 : Describing skills that you feel are important  
 Explaining how Japanese relax  
 Week 9 : Talking about 5 innovations in your own field  
 Explaining Famous Japanese People  
 Week 10 : Describing 5 professional homepages in your area  
 Explaining Japanese Superstitions  
 Week 11 : Talking about current topics that you have studied  
 Explaining Japanese Animations  
 Week 12 : Summarizing 3 professional journal articles (1)  
 Explaining Japanese Arts and Theater  
 Week 13 : Formulating responses to articles (1)  
 Explaining Japanese Etiquette and Customs  
 Week 14 : Summarizing 3 professional journal articles (2)  
 Explaining Japanese  
 Week 15 : Exam

## 5. 評価方法・基準

Weekly assignments 50% Quizzes 50% Presentations and email assignments: Extra credit

## 6. 履修上の注意事項

Students are expected to do the weekly reading and writing assignments based on their own research area, and to do a few short presentations in the own area for extra credit.

## 7. 教科書・参考書

Explain It: Talking about Japanese Culture in English.  
 Robert Long. Lulu Press.

## 8. オフィスアワー等

Monday : 10 : 00 - 5 : 00 Tuesday : 10 : 00 - 5 : 00

## 中級英語 I Intermediate English I

担当学年：全年次 担当学科：全学科  
 学期：前期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択  
 担当教員 大野 瀬津子

## 1. 概要

この授業では、英語が苦手でも、英語力の向上や異文化理解に熱意のある学生を歓迎する。異文化理解を扱った教材を使用し、英語コミュニケーション能力の全般的向上を図る。特に、音読やスピーチ等の活動を通し、スピーキング能力の養成を重視する。同時に、異文化理解に必要な視点を学習することで、国際感覚の向上を図る。

## 2. キーワード

異文化理解、スピーチ

## 3. 到達目標

- 1) 自分の意見を英語で組み立て、表現できるようになる。
- 2) 異文化理解についての意識を高める。

## 4. 授業計画

1. ガイダンス
2. Lesson1 Contracts Are Best
3. Lesson2 Should Privacy Be Protected?
4. Lesson3 Discovering Japan
5. Lesson4 Discrimination, or Being Japanese…?
6. Lesson5 Misunderstandings
7. Lesson6 What Is Young, and What Is Old?
8. Lesson7 The Real
9. Lesson8 Malaysia, a Nation of Multilingualism
10. Lesson9 Superstition Across an Ocean
11. Lesson10 Cultural Time
12. Lesson11 The Unusual Bus Driver
13. 音読テスト
14. スピーチ
15. スピーチ

## 5. 評価方法・基準

原則として、活動参加40%、音読テスト10%、スピーチ50%とする。総合評価で60点以上を合格とする。

## 6. 履修上の注意事項

全体出席数が3分の2以上ないと、履修資格を失う。  
 本授業の予習では、必ず教科書添付のCDを利用し、音読しておくこと。

## 7. 教科書・参考書

Colin Sloss, Toshiaki Kawahara, Richard Grassi. Shift the Focus. 三修社, 2006.

## 8. オフィスアワー等

研究室の前に掲示。

## 中級英語 I Intermediate English I

担当学年：全年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択

担当教員 八丁 由比

### 1. 概要

英語学習時間を増やしたい学生や意欲旺盛ながら英語力に自信のない学生を対象に、主体的学習を中心とした授業を行う。テキストのトピックをきっかけに、調査、発表、議論を多く行い、暗記の英語から実践の英語を体験する。最終的には、間違ふことを恐れずに積極的に英語を使うようになることを目指す。

### 2. キーワード

情報発信 運用能力 国際性

### 3. 到達目標

主体的な学習を多く行い、英語運用能力と積極性を高めることを目指す。

### 4. 授業計画

第1回 デモンストレーション

第2回 発表と読解 Angkor, Cambodia

第3回 読解と議論

第4回 発表と読解 Mausoleum of the First Qin Emperor, China

第5回 読解と議論

第6回 発表と読解 Ajanta Caves, India

第7回 読解と議論

第8回 発表と読解 Gusuku Sites, Kingdom of Ryukyu

第9回 読解と議論

第10回 発表と読解 Petra, Jordan

第11回 読解と議論

第12回 発表と読解 Historic District of Quebec

第13回 読解と議論

第14回 発表と読解 Rapa Nui National Park

第15回 読解と議論

### 5. 評価方法・基準

平常点 (70%) 期末課題 (30%)

60点以上を合格とする。

### 6. 履修上の注意事項

辞書を持参すること。

三分の二以上の出席が無い場合は、履修資格を失うので注意。

成績が「不合格」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。

### 7. 教科書・参考書

Setsuko Watanabe, Wonders of the World on the Web. Nanundo, 2006.

辞書

### 8. オフィスアワー等

オフィスアワー：研究室前の掲示を参照

研究室：総合教育棟 410

連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

## 上級英語A I Advanced English AI

担当学年：(1)・2・3・4年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択

担当教員 Ian Ruxton

### 1. 概要

This course aims to introduce various sports, and to improve the communicative competence of students about sports and themselves in English.

### 2. キーワード

Sports, Speaking, Listening, Reading, Writing

### 3. 到達目標

a) To improve the English of students. (Speaking and listening are stressed, but reading and writing are not ignored).

b) To introduce and discuss various sports in English.

### 4. 授業計画

1. Self-introductions

2. Olympic Games

3. Soccer

4. Rugby

5. American Football

6. Field Hockey

7. Ice Hockey

8. Cricket

9. Tennis

10. Table Tennis

11. Volleyball

12. Fencing

13. Golf

14. Review

15. Test

### 5. 評価方法・基準

Tests are given twice a year, but participation in classes every week is also important. Pay attention to the following points:

a) prepare thoroughly for class

b) do writing exercises on your own

60点以上を合格とする

### 6. 履修上の注意事項

・3分の2の出席数がないと履修資格を失う(工学部学修細則第8条2)

・1年次で履修する場合のみTOEIC500点のスコア(あるいは同レベルの他の英語検定試験スコア)が必要である。

### 7. 教科書・参考書

教科書：Big Sports of the World, published by Ikubundo (郁文堂)

参考書：A monolingual (English-English) dictionary published by Cambridge, Oxford or Longmans.

### 8. オフィスアワー等

Mondays 3-4pm

ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

## 上級英語A I    Advanced English A I

担当学年：(1)・2・3・4年次 担当学科：全学科  
 学期：前期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択  
 担当教員 Robert Long

## 1. 概要

The purpose of this course is to help students express their ideas and opinions, ask questions, and to show more autonomy in creative expressions. Fluency is improved so that fewer utterances are telegraphic. Students will gradually move into paragraph length speech by the end of the course. Students will exhibit gains in vocabulary and grammar. The focus is on topics concerning Japanese culture.

## 2. キーワード

Social topics, personal issues, conversational interactions, interactive competency, fluency

## 3. 到達目標

Students are graded on their effort in completing weekly assignments and on their accuracy (weekly quizzes). Students should make progress in being able to coherently take a position on a social issue, and to make a written and oral statement concerning it. Reviews also given weekly in order to improve the student's fluency. Thus, by the completion of the course, students should be at the higher intermediate level.

## 4. 授業計画

Week 1 : Crazy Fashions the Norm	Paired Interviews
(Responding to Opinions; making observations)	
Week 2 : Marriage Under the Microscope Consultations	
(Summarizing; reacting; recommending)	
Week 3 : Wireless Japan	Debates
(Accepting, rejecting statements; mediating)	
Week 4 : My Grandfather's	Group Work
(Forming a consensus, sharing opinions)	
Week 5 : Review	Paired Discussions
All forms	
Week 6 : E-Commerce	Surveying
(Soliciting, noting, Analyzing, Evaluating)	
Week 7 : Rap and Hip-Hop Music	Paired Interviews
(Responding to Opinions; making observations)	
Week 8 : Review	Paired Discussions
All Previous forms	
Week 9 : Children: A Different Breed	Consultations
(Summarizing; reacting; recommending)	
Week10 : Competitive Sports	Debates
(Accepting, rejecting statements; mediating)	
Week11 : Women Managers	Group Work
(Forming a consensus, sharing opinions)	
Week12 : Social Activists	Surveying
(Soliciting, noting, Analyzing, Evaluating)	
Week13 : Review	Paired Discussions
All forms	
Week14 : Review	Paired Discussions
All forms	
Week15 : Exam	Exam
Exam	

## 5. 評価方法・基準

Weekly assignments 50% Tests 50% Presentations and email assignments: Extra credit

## 6. 履修上の注意事項

Students are expected to do the weekly reading and writing assignments in their own area, and to do a few short presentations in the own area. Therefore, they are expected to do some research concerning various research aspects that they are interested in and like to study.

1年次で履修する場合のみTOEIC500点のスコア(あるいは同レベルの他の英語検定試験スコア)が必要である。

## 7. 教科書・参考書

*Crossing Over: Exploring Japanese Culture and Life through English*, by Robert Long. Lulu Press.  
 ISBN 1-4116-28039

## 8. オフィスアワー等

Monday : 10 : 00-5 : 00 Tuesday : 10 : 00-5 : 00

## 上級英語B I    Advanced English BI

担当学年：(1)・2・3・4年次 担当学科：全学科  
 学期：前期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択  
 担当教員 村田 忠男

## 1. 概要

一貫して、国際体験の実現を目指し、国際感覚の向上をはかる。豊かな伝統を保ちながらも変動を続けるヨーロッパ(文化)に関する英文エッセイを材料にしつつ、英語による要約や表現力の向上を目指す。教科書は一冊指定するが、追加資料は、こちらで用意する。また、インターネットを利用してヨーロッパ情報を取得し、クラスで情報交換を実施する。受講後は、ヨーロッパ等に行こうという気になるよう仕向けたい。英語発表能力の訓練を重視する。

## 2. キーワード

ヨーロッパ文化、インターネット、情報交換

## 3. 到達目標

1年次までに身につけた英語力をさらに向上させる。一人でヨーロッパ等を闊歩するための基礎訓練コースとしたい。EUは今や英語だけで歩ける。

## 4. 授業計画

1. ヨーロッパのステレオタイプ
2. ヨーロッパ文化とは
3. カルチャーショック
4. イタリアと日本
5. 君主制
6. 美の秘密
7. ファッション
8. 食文化
9. ワイン文化
10. ヨーロッパ製品
11. インターネット情報交換(1)
12. インターネット情報交換(2)
13. インターネット情報交換(3)
14. インターネット情報交換(4)
15. 試験

## 5. 評価方法・基準

授業への積極的参加を70%、期末試験を30%とする。活発な反応や参加をする学生には高い評価が与えられる。60点以上を合格とする。

## 6. 履修上の注意事項

- ・ヨーロッパ文化に関心をもつ学生、これから海外旅行してみたい学生の受講を薦める。英語で情報や意見の交換をできるよう、援助したい。関心のあるトピックを用意しておくことが広い意味でのコミュニケーションを円滑にする。
- ・1年次で履修する場合のみTOEIC500点のスコア(あるいは同レベルの他の英語検定試験スコア)が必要である。

## 7. 教科書・参考書

1. Joan McConnell, *Appreciating European Culture* (成美堂)
2. (参考書)インターネット接続したパソコン

## 8. オフィスアワー等

基本的には月曜2:30-4:00と水曜1:00-2:30。  
 講義時間の前後に訪問希望者はアポイントメントを取ると、上記以外に双方の都合のいい時間を設定できる。  
 murata@dhs.kyutech.ac.jpで、面接予約を事前にとることも可能。

## 上級英語BI Advanced English BI

担当学年：(1)・2・3・4年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択

担当教員 田吹 昌俊

### 1. 概要

コミュニケーションの手段としての口語英語能力を更に上達させる目的で講義を行う。ここでは特に様々な題材を使用しディスカッションに重点を置いた講義を行う。

### 2. キーワード

時事問題、社会問題、科学問題

### 3. 到達目標

英語を媒体として様々な時事問題を読み、ディスカッションすることにより個別のテーマについて熟知し、最終的にはプレゼンテーション出来るレベルにまで英語能力を上げる。

### 4. 授業計画

年間を通じて、日常会話レベルのreading comprehensionとdiscussionに8割程度、またその延長線上にあるpresentationに2割程度の時間を当てる。

さらにBeatles' Lyrics等を使用し聴解能力と語彙能力を上達させる。また必要に応じTOEICのreadingやlistening分野の対策も行う。

1. 社会ニュース
2. 科学ニュース
3. 経済ニュース

などの時事問題を扱う。

### 5. 評価方法・基準

- (1) 学期試験-30%
  - (2) 授業でのディスカッション、プレゼンテーション、および小テスト等-50%
  - (3) Presentation-20%
- 合計で60%以上を合格とする。

### 6. 履修上の注意事項

- ・最初の授業で説明する。
- ・1年次で履修する場合のみTOEIC500点のスコア（あるいは同レベルの他の英語検定試験スコア）が必要である。

### 7. 教科書・参考書

最初の授業で説明する。教科書については最初の授業で指示する。またハンドアウトを適時配布する。

### 8. オフィスアワー等

木曜日 4時限目  
(総合教育棟 4階414)

## 上級英語CI Advanced English CI

担当学年：3・4年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択

担当教員 虹林 慶

### 1. 概要

本授業は上級英語科目として、英語を多用した内容としている。具体的には読解に基づくディスカッション、リスニングに基づくディスカッション、そしてすべてを包括的にまとめる英作文などである。総合英語を全て履修した学生がさらにコミュニケーション能力を高めるための授業である。

### 2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、批判的思考

### 3. 到達目標

海外留学などを想定して、そのような状況下においてもきちん自分の意見が示せることが出来るようになることが目標である。単に英語学習にとどまらず、それに必然的に結びつく批判的思考なども学ぶことを目指す。

### 4. 授業計画

1. Introduction
2. Adventure
3. Crime
4. Culture Clash
5. Ecology
6. Freedom
7. Discussion 1
8. Globalisation
9. Horror
10. Language
11. London Life
12. Love
13. Discussion 2
14. Review Test

### 5. 評価方法・基準

定期試験60%、平常点40%。総合評価で60点以上を合格とする。

### 6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックは個別にオフィスアワーで行う。

### 7. 教科書・参考書

教科書：Ideas and Issues: Upper-Intermediate  
(Macmillan)

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）

Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心がある人に）

Seiko, Sharp, Casioの電子辞書（英語専用モデル）はお勧めできます。

### 8. オフィスアワー等

火曜日4限(14:30-16:00)  
(総合教育棟 4階:412)

技術英語 I Technical English I

担当学年：3・4年次 担当学科：全学科  
 学期：前期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択  
 担当教員 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the class is also evaluated by the weekly assignments, time spent on various speaking topics, and email assignments. Extra credit can be earned through presentations and through the writing/email assignments. The syllabus provides engineering topics for students in their own field.

2. キーワード

technical English, skill orientation, vocabulary development, civil engineering, mechanical engineering, chemical engineering, materials, general issues

3. 到達目標

The course aim is to help students to develop their speaking, reading, and writing abilities and to become more familiar with technical vocabulary, and expressions in their own field of engineering. The syllabus provides engineering topics for students in their own field

4. 授業計画

Chemical Engineers	Network Engineers	Mechanical Engineers	Civil Engineers	Electrical Engineers
1. Corrosion	Local Area Network	Fluid Mechanics	Structural Analysis	Electrical Resistance
2. Bonding	Peer-to-Peer Network	Mechatronics	Seismic Engineering	Electrostatics
3. Radiochemistry	ZigBee	Pneumatics	Dams	Electric Networks
4. Ceramics	Wireless Mesh Networks	Solar Energy	Bridges	Digital Circuits
5. Acids	Ant Colony Optimization	Automatic Systems	Reservoirs	Transformers
6. Reviews/ Exams	Reviews/Exams	Reviews/Exams	Reviews/Exams	Reviews/Exams
7. Absorption	Software Engineering	Nanotechnology	Surveying	Telecommunications
8. Analytical Chemistry	Computer Architecture	Drafting	Fire Protection Engineering	Voltage
9. Catalysis	Operating Systems	Piping	Geotechnical Engineering	Electronics
10. Chemical Kinetics	Cryptography	Seals and Fittings	Transport Engineering	Microelectronics
11. Chemical Reactors	Artificial Intelligence	Values	Environmental Engineering	Signal Processing
12-14. Reviews / Exams	Reviews/Exams	Reviews/Exams	Reviews/Exams	Reviews/Exams

5. 評価方法・基準

Weekly assignments 50% Tests 50% Presentations and email assignments: Extra credit

6. 履修上の注意事項

Students are expected to do the weekly reading and writing assignments in their own area, and to do a few short presentations in the own area. Therefore, they are expected to do some research concerning various research aspects that they are interested in and like to study.

7. 教科書・参考書

First semester: The Technical Matrix I, by Robert Long, and Brian Cullen, Perceptia Press

8. オフィスアワー等

Monday : 10 : 00- 5 : 00 Tuesday : 10 : 00- 5 : 00

総合英語AII Comprehensive English AII

担当学年：1年次 担当学科：全学科  
 学期：後期 単位数：1単位 必修・選択の別：必修  
 担当教員 Ian Ruxton, Robert Long, Mark Gibson, Bruce Haendel, Mike Mackay, Chris O'Sullivan, Gareth Steele, Raymond Stubbe, Andrew Watt

1. 概要

Spoken English is becoming daily more essential for citizens of our rapidly globalizing world. The main aim is to teach students to speak and understand spoken English. This course is entirely taught by native speakers.

2. キーワード

speaking, listening, writing, reading, communication, culture

3. 到達目標

- (e) To introduce freshmen students to native-speaker led listening and speaking practice in English
- (f) To review some basic grammatical structures, develop vocabulary, and examine the use of common expressions
- (g) To practice the writing of English paragraphs and compositions
- (h) To develop the confidence of students about spoken English and encountering foreign cultures

4. 授業計画

- 1. Getting information.
- 2. Making an invitation.
- 3. Talking about plans.
- 4. Making announcements.
- 5. Making predictions.
- 6. Asking about prices.
- 7. Shopping.
- 8. Talking about emotions.
- 9. Expressing opinions.
- 10. Following instructions.
- 11. Giving instructions.
- 12. Listening strategies.
- 13. Communication strategies.
- 14. Review
- 15. Test

5. 評価方法・基準

Attendance at a minimum of 2/3 of classes, classwork, homework and an examination at the end of each semester.

6. 履修上の注意事項

3分の2の出席数がないと履修資格を失う(工学部学修細則第8条2)

必ず一年生の間この必修単位を取ってください!!後は専攻で忙しくなるから。。。) Make sure you get this credit in the first year, as you will be very busy later with your major.

7. 教科書・参考書

- (1) Marc Helgesen, et al. : New English Firsthand (Lingual House)
- (2) Instructors may use other approved textbooks at their discretion.
- (3) A monolingual (English - English) dictionary is strongly recommended.

8. オフィスアワー等

Wednesdays, 12-2.30pm.  
 ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

総合英語BII Comprehensive English BII

担当学年：1 年次 担当学科：機械知能工学科・マテリアル工学科  
・総合システム工学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 大野 瀬津子

1. 概要

前期に引き続き、様々なスタイルの英語の文章を読む。パラグラフ・リーディングの練習を通じ、文章の内容だけでなく、構造を理解する力を養う。同時に、リスニングと音読を取り入れ、英語のコミュニケーション能力の向上を目指す。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、音読

3. 到達目標

- 1) 英語の文章を構造で把握する姿勢を身に付ける。
- 2) 世界の多様な英語に対応できるリスニング力を養う。
- 3) 英語学習に音読を取り入れる姿勢を養う。

4. 授業計画

1. ガイダンス
2. Topic12 Here Comes the Judge (I)
3. Topic13 Here Comes the Judge (II)
4. Topic14 Knowing Where You Stand
5. Topic15 Road Signs?
6. Topic16 Garden Survey (I)
7. Topic17 Garden Survey (II)
8. Topic18 Not Good Enough, Even for Orphanages
9. Topic19 South Korean Moms Pray for Student Success (I)
10. Topic20 South Korean Moms Pray for Student Success (II)
11. Topic21 The Basques
12. Topic22 Okinawans
13. まとめ
14. 音読テスト
15. 期末テスト

5. 評価方法・基準

原則として、活動参加40%、音読テスト10%、期末テスト50%とする。総合評価で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

全体出席数が3分の2以上ないと、履修資格を失う。  
授業への積極的な参加を必要とする。

7. 教科書・参考書

- ・Kazuki Kazumi *Snapshots of Life Today* (朝日出版社)
- ・Miles Graven *World Interviews: Improving Listening and Speaking Skills* (成美堂)

8. オフィスアワー等

研究室前に掲示。

総合英語BII Comprehensive English BII

担当学年：1 年次 担当学科：建設社会学科・電気電子工学科・マテリアル工学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 村田 忠男

1. 概要

前期での英語発音の再訓練後、後期は英語ニュースの聞き取り法を毎回、少しずつ勉強し、並行して「朝日キーワード時事英語2008」の「経済、文化教育、科学、医療、社会」に関連する分野の英語力、語彙力を高め、社会各方面への関心を高める。

社会での実際の使用に耐える英語力になるよう、さらにステップアップさせ、様々なITを利用する勉強法や国際感覚を高めるための刺激を与えるようにしたい。

各自の国際度を高めるための方策を一緒に考えたい

2. キーワード

国際英語、英語聞き取り法、時事英語

3. 到達目標

英語マスメディアやIT英語情報を利用できる英語力の基礎作り。

4. 授業計画

1. 放送英語の聞き取り法 (冠詞)
2. 放送英語の聞き取り法 (代名詞)
3. 放送英語の聞き取り法 (前置詞)
4. 放送英語の聞き取り法 (助動詞・接続詞)
5. 放送英語の聞き取り法 (リズムによる短縮)
6. 放送英語の聞き取り法 (母音弱化)
7. 放送英語の聞き取り法 (リエゾン)
8. 放送英語の聞き取り法 (語中のt)
9. 放送英語の聞き取り法 (音声同化)
10. 時事英語「経済」
11. 時事英語「文化教育」
12. 時事英語「科学」
13. 時事英語「医療」
14. 時事英語「社会」
15. 試験

5. 評価方法・基準

授業への積極的参加を50%、期末試験を50%とする。  
活発な反応や参加をする学生には高い評価が与えられる。  
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

毎回の予習は、必ず声を出して行うこと。新語の記憶は、口(発音)と手(綴)の両方で入力しておくことを薦める。特に不正確な発音記憶は、有害ですらある。

7. 教科書・参考書

1. 村田忠男、田端敏幸、Braven Smillie: 「新版」カプセル・ニュース英語を聴く(CD付き)(三修社)
2. 朝日キーワード 時事英語2008(朝日新聞社)
3. (参考書) インターネット接続したパソコン

8. オフィスアワー等

基本的には月曜2:30-4:00と水曜1:00。

講義時間の前後に訪問希望者はアポイントメントを取ると、上記以外に双方の都合のいい時間を設定できる。

murata@dhs.kyutech.ac.jpで、面接予約を事前にとることも可能。

## 総合英語BⅡ Comprehensive English BⅡ

担当学年：1 年次 担当学科：機械知能工学科・電気電子工学科・  
応用化学工学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 田吹 昌俊

## 1. 概要

本講義では、英語の多角的運用能力を高める目的で読み、聞き、話すという観点から英語を扱う。特に英文の速読、即解ができる能力の養成を目指す。また、ヒアリング、ディクテーションも併せて行う。題材としては現代社会に生きる我々にとって最も意識しなければならない環境問題と社会問題に焦点を当てる。

## 2. キーワード

環境問題、社会問題、時事問題

## 3. 到達目標

英語を通じ環境や社会問題に関する知識を得ることにより、こうした問題を扱った時事英語を読んでも一応の理解が出来る言語能力と知識を習得する。

## 4. 授業計画

年間を通じて、reading、discussion や writing に 8 割程度、listening comprehension や dictation 演習に 2 割程度の講義時間を割り当てる。

1. Kazaa and Music Piracy
2. Kazaa and Music Piracy
3. Are We Grown up Yet?
4. Are We Grown up Yet?
5. Systems is Washing Ph.D Brainpower
6. Systems is Washing Ph.D Brainpower
7. Diesel Polluting Trucks Outlawed in Tokyo
8. Diesel Polluting Trucks Outlawed in Tokyo
9. Key Ocean Fish Species Disappearing
10. Key Ocean Fish Species Disappearing
11. Male Chauvinism Still Dominates Sumo World
12. Male Chauvinism Still Dominates Sumo World
13. Crazy Spoiled Youth
14. Crazy Spoiled Youth

## 15. 試験

## 5. 評価方法・基準

- (1) 試験－60%
- (2) 授業での小テスト－20%
- (3) 授業での発表やレポート－20%

なお60点以上を合格とする

## 6. 履修上の注意事項

授業への準備不足のために質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。

英英辞書か英和辞書を携帯すること。

模範解答の掲示及び解説については、オフィスアワー時に個別に行う。

3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

## 7. 教科書・参考書

1. Tabuki・Long : Reflections on Social and Environmental Issues (Seibido)
2. Osamu Yamaguchi : Listening Pointer for the TOEIC Test (Seibido)

## 8. オフィスアワー等

木曜日 4 時限目

(総合教育棟 4 階411)

## 総合英語BⅡ Comprehensive English BⅡ

担当学年：1 年次 担当学科：機械知能工学科・電気電子工学科・  
応用化学工学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 虹林 慶

## 1. 概要

情報の氾濫する現代社会にあって、英語学習も多岐に渡っている。本授業は、レベルの高い英語を読破していくことを目指す。学生にとっては、このテキスト読解を、英語運用能力の一つの基準として設定できるような授業にしている。いわば、大学生にとってのリーディングの目標を定めている。

## 2. キーワード

社会科学、ジェンダー、異文化理解、文学、カルチュラル・リテラシー

## 3. 到達目標

本授業では、大学での英語教育という観点から、大学生として必要な英語読解能力の習得を、「世界のトップレベルの文献を、自助努力をもって読破可能なこと」と位置付け、難解なテキストに取り組んでいく。またリスニングについては、比較的易しいが長めのものに慣れていく練習を行う。大学生としてのレベルでは、このテキストを自分で読みこなすことができれば、必要充分である。到達目標を具体的に示すことで、学生の自主学習においても道標となれば幸いである。

## 4. 授業計画

1. Introduction
2. The Art of Loving by Erich Fromm (1)
3. The Art of Loving by Erich Fromm (2)
4. The Science of Love by Nuna Alberts (1)
5. The Science of Love by Nuna Alberts (2)
6. The Nightingale and the Rose by Oscar Wilde (1)
7. The Nightingale and the Rose by Oscar Wilde (2)
8. Gender Signals by Desmond Morris (1)
9. Gender Signals by Desmond Morris (2)
10. Gender Signals by Desmond Morris (3)
11. The Gay Side of Nature by Jeffrey Kluger (1)
12. The Gay Side of Nature by Jeffrey Kluger (2)
13. Herland by Charlotte Perkins Gilman (1)
14. Herland by Charlotte Perkins Gilman (2)
15. Examination

※進行具合により、変更する場合もある。

## 5. 評価方法・基準

定期試験 60%、授業中の作業等40%。積極的な発表などの参加点を考慮することもある。総合評価で60%以上を合格とする。

## 6. 履修上の注意事項

- ・原則として3分の2以上の全体出席数を履修資格とする。
- ・成績評価のフィードバックは模範解答の掲示、開示で行う。個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・授業態度の悪いものは総合評価より減点や、悪質な場合、除名とする。私語、内職、携帯電話の使用、厳禁。逆に積極的な発表などは、評価したい。難解なテキストのため、十分な予習、復習を必須とする。

## 7. 教科書・参考書

教科書：PRISM (研究社)

参考書：新版研究社英和辞典(辞書を持たない人に)

Oxford Advanced Learner's Dictionary (英英辞書に関心がある人に)

Seiko, Sharp, Casioの電子辞書(英語専用モデル)はお勧めできます。

## 8. オフィスアワー等

火曜日 4 限 (14:30~16:00)

(総合教育棟 4 階:S412)

## 総合英語BII Comprehensive English BII

担当学年：1年次 担当学科：機械知能工学科・建設社会工学科・  
電気電子工学科・総合システム工学科  
学期：後期 単位数：1単位 必修・選択の別：必修  
担当教員 八丁 由比

### 1. 概要

前期に引き続いて、多種多分野の英語に触れることを目的とし、英語の利用法・活用法を学ぶ。前期に提出したレポートをもとに学生が発表を行い、英文の内容を理解するとともに、発表の仕方や質問、評価の仕方なども学ぶ。また、教員が話すショート・ストーリーのリスニングも行う。

### 2. キーワード

多種英語 情報発信 運用能力

### 3. 到達目標

様々な分野の英語を数多く読み、情報収集ができるようになる。人前で自分の言いたいことを英語・日本語の両方で伝えられるようになる。簡単な英語の話を聞き取れるようになる。

### 4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション
- 第2回 発表と評価
- 第3回 発表と評価
- 第4回 発表と評価
- 第5回 発表と評価
- 第6回 発表と評価
- 第7回 発表と評価
- 第8回 発表と評価
- 第9回 発表と評価
- 第10回 発表と評価
- 第11回 発表と評価
- 第12回 発表と評価
- 第13回 発表と評価
- 第14回 発表と評価
- 第15回 総評

### 5. 評価方法・基準

平常点 (70%) 発表 (30%)  
60点以上を合格とする。

### 6. 履修上の注意事項

辞書を持参すること。  
三分の二以上の出席が無い場合は、履修資格を失うので注意。  
成績が「不合格」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。

### 7. 教科書・参考書

プリントを配布する。  
辞書

### 8. オフィスアワー等

オフィスアワー：研究室前の掲示を参照  
研究室：総合教育棟 410  
連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

## 総合英語CII Comprehensive English CII

担当学年：2年次 担当学科：全学科  
学期：後期 単位数：1単位 必修・選択の別：必修  
担当教員 村田 忠男、田吹 昌俊、虹林 慶、八丁 由比、  
大野 瀬津子、非常勤講師 8名

### 1. 概要

総合英語AI、AII、総合英語BI、BIIを一年次で履修したことを前提とした科目である。さらに高いレベルの教授内容を提供する。大学生として必要なコミュニケーション能力が身につくことを目的に、4技能を鍛錬する。担当の教員はそれぞれバラエティに富む授業計画を用意している。

### 2. キーワード

履修年度開始の1ヶ月前にホームページに各教員担当授業分を掲載する。また、同内容をイントロダクションで配布する。

### 3. 到達目標

履修年度開始の1ヶ月前にホームページに各教員担当授業分を掲載する。また、同内容をイントロダクションで配布する。

### 4. 授業計画

- 1. イントロダクション
- 2～14. 履修年度開始の1ヶ月前にホームページに各教員担当授業分を掲載する。また、同内容をイントロダクションで配布する。
- 15. 定期試験

### 5. 評価方法・基準

履修年度開始の1ヶ月前にホームページに各教員担当授業分を掲載する。また、同内容をイントロダクションで配布する。

### 6. 履修上の注意事項

履修年度開始の1ヶ月前にホームページに各教員担当授業分を掲載する。また、同内容をイントロダクションで配布する。

### 7. 教科書・参考書

履修年度開始の1ヶ月前にホームページに各教員担当授業分を掲載する。また、同内容をイントロダクションで配布する。

### 8. オフィスアワー等

履修年度開始の1ヶ月前にホームページに各教員担当授業分を掲載する。また、同内容をイントロダクションで配布する。

中級英語Ⅱ Intermediate English Ⅱ

担当学年：全年次 担当学科：全学科

学期：後期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択

担当教員 Ian Ruxton

1. 概要

This course aims to introduce contemporary English through various media: newspapers, podcasts, vodcasts (video podcasts) and any other media available.

2. キーワード

media, audio, video, news, current affairs

3. 到達目標

- 1) To improve the listening and speaking ability of students
- 2) To deepen their understanding of current events in the world

4. 授業計画

1. Introduction
2. The river
3. Radio wedding
4. Less is more
5. Looks good!
6. Changes
7. How polite are you?
8. Going alone
9. What's in the fridge?
10. Airport
11. A star is born...or made?
12. The future of toys
13. I'll call you
14. Revision
15. Final Test

5. 評価方法・基準

Tests are given twice a year, but participation in classes every week is also important. Pay attention to the following points:

- a) prepare thoroughly for class
  - b) do writing exercises on your own
- 60点以上を合格とする

6. 履修上の注意事項

3分の2の出席数がないと履修資格を失う（工学部学修細則第8条2）

7. 教科書・参考書

教科書：*Language to go* – Intermediate (Pearson Longman 出版)

8. オフィスアワー等

Mondays 3–4pm  
ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

中級英語Ⅱ Intermediate English Ⅱ

担当学年：全年次 担当学科：全学科

学期：後期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択

担当教員 Robert Long

1. 概要

The class will focus exclusively on explaining important concepts, processes, products/outcomes and issues relating to engineering. The class (and text) is designed so that students in 5 areas of engineering (chemical, network, mechanical, civil, and electrical) can learn about specific issues and topics related to their own area. Students will also be given some time to learn how to discuss these concepts and to extend on them. The focus will be on simplified (easy) English.

2. キーワード

Engineering concepts, processes, laws, outcomes, innovations, discussions, easy English

3. 到達目標

Students are graded on their effort in completing weekly assignments and on their accuracy (weekly quizzes).

4. 授業計画

	Chemical	Network	Mechanical	Civil	Electrical
Concepts					
Week 1	Conservation of Mass Energy balances	Algorithms and Data Structures	Combustion Dynamics	Concepts in Structural Design and Analysis	Voltage
Week 2	Distillation Fluid dynamics	Software Engineering	Hydraulics Kinematics Pneumatics	Seismic Engineering Concepts	Electrostatics
Week 3	Thermodynamics	System Architecture	Control Theory	Concepts in Hydraulic Engineering	Solar Energy
Week 4	Mass Transfer Heat Transfer	Artificial Intelligence	Automatic Systems	Concepts in Environmental Engineering	Digital Circuitry
Processes					
Week 5	Process Control Process design	Machine Learning	Drafting	Surveying	Signal Processing
Week 6	Crystallization Processes	Geometric Transformations	Structural Analysis	Urban Planning	Electrical Resistance
Week 7	Distillation Processes	Image Processing	Design Optimization	Logistical Operations	Transformers
Week 8	Membrane Processes	Automated Reasoning	CAD	Water Purification	Transistors
Products/Outcomes					
Week 9	Chemical Reaction Types	Computer Graphics	Nanotechnology	Industrial Ecology	Lasers
Week 10	Chemical synthesis	Computer Vision	Robotics 1	Bridges	Electric Motors
Week 11	Chemical Kinetics	Artificial Intelligence	Robotics 2	Dams, River Channelization	Electric Networks
Related Topics					
Week 12	Ceramics	MEMS Systems	Aerospace Engineering	Sewage Water Systems	Electromagnetic Products
Week 13	Polymers	Computer Algebra	Power Turbines	Waste Recycling	High Definition Television
Week 14	Electrochemistry	Bioinformatics	Hydrogen Vehicles	Pollution Controls	Diodes
Week 15	Microfluidics	Reverse Engineering	Refrigeration	Ventilation	Microelectronics

## 5. 評価方法・基準

Weekly assignments 50% Quizzes 50% Presentations and email assignments: Extra credit

## 6. 履修上の注意事項

Students are expected to do the weekly reading and writing assignments based on their own research area.

## 7. 教科書・参考書

*Explain It: Key Concepts and Ideas of Engineering*  
Robert Long. Lulu Press.

## 8. オフィスアワー等

Monday : 10 : 00 – 5 : 00 Tuesday : 10:00 – 5 : 00

## 中級英語Ⅱ Intermediate English II

担当学年：全年次 担当学科：全学科

学期：後期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択

担当教員 大野 瀬津子

### 1. 概要

この授業では、英語が苦手でも、英語力の向上に熱意のある学生を歓迎する。現代社会の諸問題を扱った英語討論用の教材を用い、英語コミュニケーション能力の全般的向上を図るが、音読やスピーチ等の活動を通し、特にスピーキング能力の養成を重視する。同時に、英語で自分の意見を論理的に構築する作業を通し、論理的説明能力を向上させる。

### 2. キーワード

スピーチ、論理的説明能力

### 3. 到達目標

自分の意見を英語で論理的に説明できる能力を身に付ける。

### 4. 授業計画

1. ガイダンス
2. Unit 1 Internet
3. Unit 2 NEETs
4. Unit 3 Fashion
5. Unit 4 Environment
6. Unit 5 International Marriage
7. Unit 6 Junk food
8. Unit 7 Paternity leave
9. Unit 8 Depopulation
10. Unit 9 Examinations
11. Unit 10 Animal testing
12. Unit 11 Temporary workers
13. 音読テスト
14. スピーチ
15. スピーチ

### 5. 評価方法・基準

原則として、活動参加40%、音読テスト10%、スピーチ50%とする。総合評価で60点以上を合格とする。

### 6. 履修上の注意事項

全体出席数が3分の2以上ないと、履修資格を失う。

英語が苦手でも、英語力や論理的説明能力の向上に熱意のある学生を歓迎する。

本授業の予習では、必ず教科書添付のCDを利用し、音読しておくこと。

### 7. 教科書・参考書

Gillian Flaherty. *For and Against: Expressing Opinions and Exchanging Ideas*. (成美堂, 2008)

### 8. オフィスアワー等

研究室前に掲示。

## 中級英語Ⅱ Intermediate English Ⅱ

担当学年：全年次 担当学科：全学科

学期：後期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択

担当教員 八丁 由比

### 1. 概要

英語学習時間を増やしたい学生や意欲旺盛ながら英語力に自信のない学生を対象に、主体的学習を中心とした授業を行う。テキストのトピックをきっかけに、調査、発表、議論を多く行い、暗記の英語から実践の英語を体験する。最終的には、間違ふことを恐れずに積極的に英語を使うようになることを目指す。

### 2. キーワード

情報発信 運用能力 国際性

### 3. 到達目標

主体的な学習を多く行い、英語運用能力と積極性を高めることを目指す。

### 4. 授業計画

第1回 デモンストレーション

第2回 発表と読解 Uluru-Kata Tjuta National Park

第3回 読解と議論

第4回 発表と読解 Historic Center of Brugge

第5回 読解と議論

第6回 発表と読解 La Grand-Place Brussels

第7回 読解と議論

第8回 発表と読解 Archaeological Areas of Pompeii

第9回 読解と議論

第10回 発表と読解 Church and Dominican Convent of Santa Maria

第11回 読解と議論 delle Grazie

第12回 発表と読解 Alhambra, Granada

第13回 読解と議論

第14回 発表と読解 Acropolis, Athens

第15回 読解と議論

### 5. 評価方法・基準

平常点 (70%) 期末課題 (30%)

60点以上を合格とする。

### 6. 履修上の注意事項

辞書を持参すること。

三分の二以上の出席が無い場合は、履修資格を失うので注意。

成績が「不合格」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。

### 7. 教科書・参考書

Setsuko Watanabe, Wonders of the World on the Web. Nanundo, 2006.

辞書

### 8. オフィスアワー等

オフィスアワー：研究室前の掲示を参照

研究室：総合教育棟 410

連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

## 上級英語AⅡ Advanced English AⅡ

担当学年：(1)・2・3・4年次 担当学科：全学科

学期：後期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択

担当教員 Ian Ruxton

### 1. 概要

This course aims to introduce various sports, and to improve the communicative competence of students about sports and themselves in English.

### 2. キーワード

Sports, Speaking, Listening, Reading, Writing

### 3. 到達目標

a) To improve the English of students. (Speaking and listening are stressed, but reading and writing are not ignored).

b) To introduce and discuss the rules of various sports in English.

### 4. 授業計画

1. My family

2. Baseball

3. Basketball

4. Boating

5. Track and Field

6. Ice Skating

7. Bowling

8. Boxing

9. Sailing

10. Judo

11. My hobbies

12. My vacation plans

13. Newspapers

14. Review

15. Test

### 5. 評価方法・基準

• Tests are given twice a year, but participation in classes every week is also important. Pay attention to the following points:

a) prepare thoroughly for class

b) do writing exercises on your own

• 60点以上を合格とする

• 1年次で履修する場合のみTOEIC500点のスコア（あるいは同レベルの他の英語検定試験スコア）が必要である。

### 6. 履修上の注意事項

3分の2の出席数がないと履修資格を失う（工学部学修細則第8条2）

### 7. 教科書・参考書

教科書：Big Sports of the World, published by Ikubundo (郁文堂)

参考書：A monolingual (English-English) dictionary published by Cambridge, Oxford or Longmans.

### 8. オフィスアワー等

Mondays 3-4pm

ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

**上級英語A II**    Advanced English A II

担当学年：（1）・2・3・4年次    担当学科：全学科  
 学期：後期    単位数：1単位    必修・選択の別：選択  
 担当教員    Robert Long

**1. 概要**

The purpose of this course is to help students express their ideas and opinions, ask questions, and to show more autonomy in creative expressions. Fluency is improved so that fewer utterances are telegraphic. Students will gradually move into paragraph length speech by the end of the course. Students will exhibit gains in vocabulary and grammar. This course builds on the first year course in which students have had exposure to basic functional English, and sentence-length speech. The focus is on topics from around the world.

**2. キーワード**

Social topics, personal issues, conversational interactions, interactive competency, fluency

**3. 到達目標**

Students are graded on their effort in completing weekly assignments and on their accuracy (weekly quizzes). Students should make progress in being able to coherently take a position on a social issue, and to make a written and oral statement concerning it. Reviews also given weekly in order to improve the student's fluency. Thus, by the completion of the course, students should be at the higher intermediate level.

**4. 授業計画**

Week	Topics	Interaction	Grammatical focus
1.	Family	Pair work	Asking Questions
2.	Beauty	Pair work	Assertions and Disclaimers
3.	Discipline	Pair work	Comments and Reflections
4.	Expertise	Surveys	Comparisons and Suggestions
5.	Individualism	Surveys	Observation and Criticism
6.	Entertainment	Surveys	Preferences and Recommendations
7.	Obligation	Group work	Explanations and Excuses
8.	Sports	Group work	Comparisons / Complaints
9.	Equality	Group work	Opinions and Rationalizations
10.	Power	Debates	Claims and Conjectures
11.	Dependence	Debates	Descriptions and Testimonies
12.	Discipline	Debates	Choices and Judgments
13.	Review	Paired discussions	All Previous forms
14.	Reviews	Paired discussions	All Previous forms

**5. 評価方法・基準**

Weekly assignments 100%    Speeches: Extra Credit    Tests: Extra Credit

**6. 履修上の注意事項**

Students are expected to do the weekly reading and writing assignments.

1年次で履修する場合のみTOEIC500点のスコア（あるいは同レベルの他の英語検定試験スコア）が必要である。

**7. 教科書・参考書**

*Culture Compass* Lulu Press ISBN 1-4116-4484-0 Robert Long

**8. オフィスアワー等**

Monday : 10 : 00- 5 : 00    Tuesday : 10 : 00- 5 : 00

**上級英語B II**    Advanced English B II

担当学年：（1）・2・3・4年次    担当学科：全学科  
 学期：後期    単位数：1単位    必修・選択の別：選択  
 担当教員    村田 忠男

**1. 概要**

一貫して、国際体験の実現を目指し、国際感覚の向上をはかる。豊かな伝統を保ちながらも変動を続けるヨーロッパ（文化）に関する英文エッセイを材料にしつつ、英語による要約や表現力の向上を目指す。教科書は一冊指定するが、追加資料は、こちらで用意する。また、インターネットを利用してヨーロッパ情報を取得し、クラスで情報交換を実施する。受講後は、ヨーロッパ等に行こうという気になるよう仕向けたい。英語発表能力の訓練を重視する。

**2. キーワード**

ヨーロッパ文化、インターネット、情報交換

**3. 到達目標**

1年次までに身につけた英語力をさらに向上させる。一人でヨーロッパ等を闊歩するための基礎訓練コースとしたい。EUは今や英語だけで歩ける。

**4. 授業計画**

1. ヨーロッパのステレオタイプ
2. ヨーロッパ文化とは
3. カルチャーショック
4. イタリアと日本
5. 君主制
6. 美の秘密
7. ファッション
8. 食文化
9. ワイン文化
10. ヨーロッパ製品
11. インターネット情報交換（1）
12. インターネット情報交換（2）
13. インターネット情報交換（3）
14. インターネット情報交換（4）
15. 試験

**5. 評価方法・基準**

授業への積極的参加を70%、期末試験を30%とする。活発な反応や参加をする学生には高い評価が与えられる。60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

- ・ヨーロッパ文化に関心をもつ学生、これから海外旅行してみたい学生の受講を薦める。
- 英語で情報や意見の交換をできるよう、援助したい。関心のあるトピックを用意しておくことが広い意味でのコミュニケーションを円滑にする。
- ・1年次で履修する場合のみTOEIC500点のスコア（あるいは同レベルの他の英語検定試験スコア）が必要である。

**7. 教科書・参考書**

1. Joan McConnell, *Appreciating European Culture* (成美堂)
2. (参考書) インターネット接続したパソコン

**8. オフィスアワー等**

基本的には月曜 2 : 30- 4 : 00と水曜 1 : 00。  
 講義時間の前後に訪問希望者はアポイントメントを取ると、上記以外に双方の都合のいい時間を設定できる。  
 murata@dhs.kyutech.ac.jpで、面接予約を事前にとることも可能。

## 上級英語BII      Advanced English BII

担当学年：(1)・2・3・4年次 担当学科：全学科  
 学期：後期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択  
 担当教員 田吹 昌俊

## 1. 概要

コミュニケーションの手段としての口語英語能力を更に上達させる目的で講義を行う。ここでは特に様々な題材を使用しディスカッションに重点を置いた講義を行う。

## 2. キーワード

時事問題、社会問題、科学問題

## 3. 到達目標

英語を媒体として様々な時事問題を読み、ディスカッションすることにより個別のテーマについて熟知し、最終的にはプレゼンテーション出来るレベルにまで英語能力を上げる。

## 4. 授業計画

年間を通じて、日常会話レベルのreading comprehensionとdiscussionに8割程度、またその延長線上にあるpresentationに2割程度の時間を当てる。

さらにBeatles' Lyrics等を使用し聴解能力と語彙能力を上達させる。また必要に応じTOEICのreadingやlistening分野の対策も行う。

1. 社会ニュース
2. 科学ニュース
3. 経済ニュース

などの時事問題を扱う。

## 5. 評価方法・基準

- (1) 学期試験-30%
  - (2) 授業でのディスカッション、プレゼンテーション、および小テスト等-50%
  - (3) Presentation-20%
- 合計で60%以上を合格とする。

## 6. 履修上の注意事項

最初の授業で説明する。

## 7. 教科書・参考書

- ・最初の授業で説明する。教科書については最初の授業で指示する。またハンドアウトを適時配布する。
- ・1年次で履修する場合のみTOEIC500点のスコア(あるいは同レベルの他の英語検定試験スコア)が必要である。

## 8. オフィスアワー等

木曜日 4時限目  
 (総合教育棟 4階414)

## 上級英語CII      Advanced English CII

担当学年：3・4年次 担当学科：全学科  
 学期：後期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択  
 担当教員 虹林 慶

## 1. 概要

本授業は上級英語科目として、英語を多用した内容としている。具体的には読解に基づくディスカッション、リスニングに基づくディスカッション、そしてすべてを包括的にまとめる英作文などである。総合英語を全て履修した学生がさらにコミュニケーション能力を高めるための授業である。

## 2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、批判的思考

## 3. 到達目標

海外留学などを想定して、そのような状況下においてもきちんと自分の意見が示せることが出来るようになることが目標である。単に英語学習にとどまらず、それに必然的に結びつく批判的思考なども学ぶことを目指す。

## 4. 授業計画

1. Introduction
2. Money
3. Pet or Product?
4. Poverty
5. Discussion 1
6. Relationships
7. School
8. Stereotypes
9. Discussion 2
10. Success
11. Travel
12. Vanity
13. Discussion 3
14. Review Test

## 5. 評価方法・基準

定期試験60%、平常点40%。総合評価で60点以上を合格とする。

## 6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックは個別にオフィスアワーで行う。

## 7. 教科書・参考書

教科書：Ideas and Issues: Upper-Intermediate (Macmillan)  
 参考書：新版研究社英和中辞典(辞書を持たない人に)  
           Oxford Advanced Learner's Dictionary (英英辞書に関心がある人に)  
           Seiko, Sharp, Casioの電子辞書(英語専用モデル)  
           はお勧めできます

## 8. オフィスアワー等

火曜日 4限(14:30-16:00)  
 (総合教育棟 4階:412)

**技術英語Ⅱ** Technical English II

担当学年：3・4年次 担当学科：全学科

学期：後期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択

担当教員 Robert Long

**1. 概要**

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the class is also evaluated by the weekly assignments, time spent on various speaking topics, and email assignments. Extra credit can be earned through presentations and through the writing/email assignments. The syllabus provides engineering topics for students in their own field.

**2. キーワード**

technical English, skill orientation, vocabulary development, civil engineering, mechanical engineering, chemical engineering, materials, general issues

**3. 到達目標**

The course aim is to help students to develop their speaking, reading, and writing abilities and to become more familiar with technical vocabulary, and expressions in their own field of engineering. The syllabus provides engineering topics for students in their own field

**4. 授業計画**

Chemical Engineers	Network Engineers	Mechanical Engineers	Civil Engineers	Electrical
1. Thermodynamics	Programming Paradigm	Aerospace engineering	Industrial ecology	Diodes
2. Microfluidics	Automated reasoning	Wind power turbines	Soil erosion	Ionising radiation
3. Distillation	Motion planning	Combustion	River engineering	TRIAC
4. Chemical reactors	MEMS system	Diesel engines	Gravitational erosion	Thermionic emissions
5. Biochemical Engineering	Computer Algebra	Kinematics	Coastal Management	High Definition TV
6. Reviews/Exam	Reviews/Exam	Reviews/Exam	Reviews/Exam	Reviews/Exam
7. Plastics	Computer Vision	Lasers	Pollution Controls: Biofilters	Electromagnetics
8. Metals	Machine Learning	Electrical Motor	Ventilation	Transistors
9. Heat Transfer	Bioinformatics	Waste Recycling	Sewage Water Systems	Transmission Lines
10. Polymers	Theories of Computation	Hydrogen Vehicles	Remediation	Feedback
11. Crystallization	Reverse Engineering	Refrigeration	Hazardous Waste Management	Programmable Logic Controllers
12.-14. Reviews and Exams	Reviews/Exams	Reviews/Exams	Reviews/Exams	Reviews/Exams

**5. 評価方法・基準**

Weekly assignments 50% Tests 50% Presentations and email assignments: Extra credit

**6. 履修上の注意事項**

Students are expected to give a few short presentations in the own area. Therefore, they are expected to some a little research concerning various research aspects that they are interested in.

**7. 教科書・参考書**

The Technical Matrix II by Robert Long. Lulu Press

**8. オフィスアワー等**

Monday : 10 : 00- 5 : 00 Tuesday : 10 : 00- 5 : 00

## 【外国語を学ぶ意義】

### 1. 言葉の役割

人間は、言葉を用いて考える。質の高い思考をするためには、良質かつ多くの言葉を持つことが不可欠である。言葉による思考は、認識の深化とコミュニケーションの遂行に重要な貢献をする。

### 2. 母（国）語と外国語

人間の思考は、その人間が習得している母（国）語の思考形式に強く影響される。言葉は文化の形式を規定する、と言える。

外国語の習得は、その言語の道具的使用にとどまらず、学習者の文化的思考の枠組みを広げることに寄与する。

### 3. 英語以外の言語を学ぶ必要性（真の国際性の養成）

現代においては、ともすれば英語のみを学習すれば事足りるように考えがちである。しかし、英語だけを勉強して事足りると考えることは、日本語による文化的思考の枠組みからは脱却できるかもしれないが、新たに英語による文化的思考の枠組みの中に限定されてしまう。

日本の外的世界は、英語文化圏のみならず、ヨーロッパ文化圏・イスラム文化圏・アジア文化圏など、多種多様な文化圏から成り立っている。英語以外の言語を学び、世界に多様な文化が存在することを知らなければならないことは、現代社会に生きる人間として必要なことであり、また、学生にそうした機会を提供することが世界全体の文化の普遍的な発展を目指すものとして大学に課せられた使命であり、真の国際性の養成にも通ずる。

## 初修外国語の選択必修科目について

初修外国語は、3科目（各1単位）がドイツ語又は中国語での選択必修となっている。以下、初修外国語の履修の仕方について説明する。

ドイツ語を選んだ学生は「基礎ドイツ語 A I」（前期）、「基礎ドイツ語 A II」（後期）、「基礎ドイツ語 B」（前期又は後期）が必修となり、中国語を選んだ学生は「基礎中国語 A I」（前期）、「基礎中国語 A II」（後期）、「基礎中国語 B」（後期）が必修となる。

4月に「基礎ドイツ語 A I」又は「基礎中国語 A I」のどちらかを選ぶことにより、各自の初修外国語の必修科目は決まり、以後、変更出来ない。

中国語の履修を希望する学生は、第一回目の「基礎中国語 A I」の授業に出ること。希望者多数の場合、それぞれのクラスで抽選し、担当教員の許可を得た者が、中国語を初修外国語として履修できる。その際、後期も同じ教員の担当する「基礎中国語 A II」を履修しなければならない。選に漏れた学生は自動的にドイツ語を必修科目として履修することになる。

ドイツ語の履修を希望する学生、および、上記の選に漏れた学生は、クラス指定となっているので、指定された授業に出席し、履修登録すること。

なお、上記は初修外国語の選択必修科目についてのものであり、選択科目については各自自由に選択することが出来る。

## 【ドイツ語を学ぶ意義】

### (1) 現代社会の基礎創成を担った言語であること

九工大の学生たちは、17世紀ごろから始まった西欧近代合理主義にその源を持つ西欧近代科学技術を学んでいる。この西欧近代合理主義をあるときは育み、あるときは敵対することでその発展に寄与してきたのは、主としてイギリス・ドイツ・フランス、後にはアメリカなどを含む西欧近代国家である。つまり、ドイツ語は西欧近代合理主義の発展を直接支えてきた言語のひとつである。

### (2) 言語としての学習の容易さ

言語は文法から出発して個別の場合に適用して理解できる部分と、語法として覚えてしまわなければならない部分とを持ち合わせているが、ドイツ語学習の初期段階においては、文法で解釈できる部分が多い。公理や定理から出発して個別の場合に敷衍的に適用していく手法は理科系科目の各分野において現れるもので、九工大の学生にとっては受け入れやすいものである。

### (3) ドイツ及びドイツ語圏諸国の魅力

#### (ア) 多元的社会的創造

ドイツは国家成立の経緯から連邦制を取っている。また、現在のドイツは東欧圏や南欧圏、さらにはトルコを含む周辺の諸国から多くの移民を受け入れている。連邦制による地方分権も進んでおり、国家として多元的社会的実現している。

EUは国家の連合体であり、その成り立ちからして多元的社会的を目指している。ドイツは EU の中心的な役割を担っており、多元的社会的創造に寄与している。

#### (イ) 環境先進国としてのドイツ

また、全世界的な関心を集めている環境問題に関しても、森林枯死などの問題を通じて、技術的にも制度的にも世界の最先端を進んでいる。

#### (ウ) 学術的・文化的影響

ドイツ語は西欧近代合理主義の発展を担ってきたので、自然科学上の重要な論文には、ドイツ語で書かれたものも数多くある。ドイツ語を学ぶことは、そうした自然科学や、その他の学術的・文化的魅力に直接触れるきっかけも提供してくれるだろう。

#### (エ) ドイツ語圏諸国

ドイツ語は、オーストリア、スイス、リヒテンシュタインなどでも公用語として使われている。モーツァルトやシューベルトが生まれ、ベートーベンやブラームスが半生を過ごしたオーストリアは、「音楽の国」として世界に並ぶものがない。オーストリアはまた、フロイトやアードラーを生んだ心理学の国としても知られるし、ハプスブルク時代から続くその多様な文化には、ヨーロッパ文化の縮図を見ることが出来る。政治的にはオーストリアもスイスも永世中立国であり、13世紀まで遡ることのできるスイスの連邦制は今も世界のお手本となっている。4つの言語が話されるスイスは、作家トーマス・マンが「ヨーロッパの中のヨーロッパ」と呼んだことでも分かる通り、多文化社会の先進国といえる。

## 【ドイツ語学習の目的・目標について】

ドイツ語では現在選択必修・選択に分け、次のような講義を開講している。

- 【選択必修】 基礎ドイツ語 A I（前期 1 単位）、  
基礎ドイツ語 A II（後期 1 単位）  
基礎ドイツ語 B（前・後期 1 単位）
- 【選択】 選択ドイツ語 A（前・後期 1 単位）  
選択ドイツ語 B I（前期 1 単位）、  
選択ドイツ語 B II（後期 1 単位）  
選択ドイツ語 C I（前期 1 単位）、  
選択ドイツ語 C II（後期 1 単位）

- ドイツ語を学習する第一の目的は、先に述べた『言葉の役割』に鑑みて、「ドイツ語の学習を通じ、言葉によってものを考える力を養う」ことにある。基礎ドイツ語 A I・A II においては、ドイツ語初級文法の全体的な成り立ち方を論理的に理解・定着させることにより、ドイツ語文法の基礎を習得し、新たな思考の枠組みを作り上げることを目標とする。
- 基礎ドイツ語 B においては、『母（国）語と外国語』で述べた言語が文化を規定する面に重点をおいて学習することを目的とする。言語が文化と最も直接に関わるのは、その表現においてである。基礎ドイツ語 B においては、ドイツ語の表現力を養うことにより、ドイツ語独自の文化形式を理解することが目標となる。文法そのものが対象ではないので、様々な教材を用いる可能性がある。また、ネイティブ・スピーカーによるコミュニケーション能力の育成、長文読解を通じての表現力の涵養や、もっと直接に独作文による表現力の養成も可能である。なお、前期または後期一単位ではこの目的にはとても足りないため、選択ドイツ語 A も併せて履修することを強く推奨する。選択ドイツ語 A において目的・目標とされることは、基本的には基礎ドイツ語 B の発展である。
- 選択ドイツ語 B I・B II においては、『ドイツ語を学ぶ意義』で述べた近現代のドイツの重要性と深く関わる部分にスポットを当てて学習することを目的とする。これも教師がどの部分を重視するかによって、選ばれる教材は異なる。ある教師は、直接にドイツの現代の環境問題について述べたテキストを教材に選ぶかもしれない。ある教師は、現代ドイツの環境問題は、ドイツの思想界・文学界が積み上げてきた自然との格闘にその根源を持つと考えて、ゲーテの詩を読むかもしれない。また、ある教師は、ドイツ語の多元的社会的創造を担う側面を重視したり、ドイツ語のコミュニケーション能力をさらに発展させる授業を行うかも知れない。  
いずれにしても、『ドイツ及びドイツ語圏諸国の魅力』を理解することを目標とする。
- 選択ドイツ語 C I・C II においては、『英語以外の言語を学ぶ重要性（真の国際性の養成）』や『ドイツ語を学ぶ意義』で述べられた内容を最も高いレベルにおいて、実現するものとなる。

### 【履修上の注意点】

- 基礎ドイツ語 A 1、A 2、基礎ドイツ語 B はクラス指定制をとっているため、所定のクラスで受講すること。
- 十分なドイツ語の力を身につけるためには選択ドイツ語 A、選択ドイツ語 B I、B II、選択ドイツ語 C I、C II を積極的に受講することが望ましい。

### ※再履修に関して

- 再履修に関しても基礎ドイツ語 A 1、A 2、基礎ドイツ語 B はクラス指定制をとっているため、所定のクラスでの受講者を優先する。
- 所定のクラス以外での受講は適正規模の範囲内で認められる。
- 受講希望者数が適正規模を越えた場合には履修を制限することがあるので、掲示に注意すること。

## 基礎ドイツ語 A I Basic German A I

機械知能工学科 第 1 年次 前期 選択必修 1 単位

担当教員 今井 敦

### 1. 概要

#### ●授業の背景

画一的なもの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

#### ●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

#### ●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。後期の「基礎ドイツ語 A II」と連続した内容となる。

### 2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

### 3. 到達目標

後期の「基礎ドイツ語 A II」が終わった段階で、辞書を使えば簡単な文章なら読める、最低限必要な表現を何も見ずに言える、というところまで持って行く。

### 4. 授業計画

教科書は 14 課からなっているが、第 7 課まで進む予定。各課の構成は、基本的例文、文法事項の説明、練習問題、という 3 つの部分に分かれている。授業では 2 回に 1 課進む予定である。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。隔週で確認のための小テストを行う。さらに、1 回毎に日常生活で最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習をする。

### 5. 評価方法・基準

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。学期末の筆記試験（2 / 3）および、小テストなど平常点（1 / 3）で評価し、100 点満点で 60 点以上を合格とする。

### 6. 履修上の注意事項

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

### 7. 教科書・参考書

教科書：純・初級ドイツ文法（新正書法版）2000 円

独和辞典：第 1 回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

### 8. 学生面会時間

火曜日午後 2 時から午後 6 時（会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する）、またはその他の前もって予約した時間。個人研究室は総合教育棟 3 階東側 313。

## 基礎ドイツ語A I Basic German A I

機械知能工学科 2組 第1年次 前期 選択必修 1単位

担当教員 岡野 裕司

## 1. 概要

## ●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

## ●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

## ●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

## 2. キーワード

外国語、思考力、国際化

## 3. 到達目標

講義修了後には、辞書を用いて簡単なドイツ語の文章が独力で読めるようにする。

## 4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

## (1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化  
(人称代名詞も含めて)

## (2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方  
——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了

## (3) 展開期——豊かな表現をめざして

- ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
- ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語A Iの授業では、上記(1)導入期の内容を学習する。

## 5. 評価方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

## 6. 履修上の注意事項

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

## 7. 教科書・参考書

教科書：齊藤他著「若草のドイツ語文法」三修社

参考書：授業中に適宜紹介する。

## 8. オフィスアワー等

別途掲示する。

## 基礎ドイツ語A I Basic German A I

機械知能工学科・建設社会工学科 第1年次 前学期 選択必修

1単位

担当教員 藤澤 正明

## 1. 概要

## ●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

## ●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

## ●授業の位置付け

2年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、選択ドイツ語につながる学力を修得する。

## 2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

## 3. 到達目標

ドイツ語文法の基本事項を理解し、日本語とは異なる新たな思考の枠組みに慣れるようにする。

## 4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を1回ないし2回程度かけて取り扱う(前学期第1回~15回。ただし、定期試験を含む)。

## 発音

動詞の現在人称変化

冠詞と名詞

人称代名詞・冠詞類

定形の位置

前置詞

話法の助動詞

動詞の3基本形

現在完了形

分離動詞

形容詞

再帰動詞

分離動詞・esの用法

関係代名詞

受動

接続法

分詞・zu不定詞

## 5. 評価方法・基準

前学期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

## 6. 履修上の注意事項

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

## 7. 教科書・参考書

## ●教科書

本郷健治他：CD付き気分はドイツ(三修社)

## 8. オフィスアワー等

学生相談日を設定(曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示)

**基礎ドイツ語A I** Basic German A I

建設社会工学科 第一年次 前学期 選択必修 1 単位  
担当教員 古賀 正之

**1. 概要**

- 授業の背景  
別項「外国語を学ぶ意義」を参照。
- 授業の目的  
別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。
- 授業の位置付け  
同上。

**2. キーワード**

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

**3. 到達目標**

独検 4 級程度のドイツ語の習得。

**4. 授業計画**

- {1} 自己紹介 (1) 名前・出身・住まい・職業  
文法：動詞の現在人称変化 1 (規則動詞)  
sein の現在人称変化  
疑問文の作り方
  - {2} 自己紹介 (2) 周囲の環境／家族構成  
文法：名詞の性と格  
格変化 (1 格・4 格)  
haben の現在人称変化  
動詞の位置
  - {3} 余暇について述べる  
文法：動詞の現在人称変化 2 (不規則動詞)  
定冠詞、指示代名詞、人称代名詞の格変化 (1 格・4 格)  
否定文の作り方  
疑問文の答え方
  - {4} 休暇の計画／助言・意見を求める・アドバイスする  
文法：話法の助動詞 (1)  
名詞の 3 格  
人称代名詞の格変化 (1・3・4 格)  
不定冠詞、所有冠詞、定冠詞の 3 格
  - {5} 挨拶 (応用編)／方位／前半のまとめ (チェックリスト)
- \* 上記の各ユニット {1} ～ {5} で取り扱う文法事項を用いて、学生自身が口頭表現練習を行い、発表する。1 つのユニットはおよそ 3 回の授業で終了する予定。

**5. 評価方法・基準**

期末試験および演習 (発表と受講態度) の結果で評価する。60 点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

特になし。

**7. 教科書・参考書**

[教科書] シュミット／山口 ドイツ語案内板 (同学社)

**8. オフィスアワー**

**基礎ドイツ語A I** Basic German A I

電気電子工学科 第 1 年次 前学期 選択必修 1 単位  
担当教員 藤澤 正明

**1. 概要**

- 授業の背景  
言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2 年次に行われる基礎ドイツ語 B と共にドイツ語の基礎を学習し、選択ドイツ語につながる学力を修得する。

**2. キーワード**

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

**3. 到達目標**

ドイツ語文法の基本事項を理解し、日本語とは異なる新たな思考の枠組みに慣れるようにする。

**4. 授業計画**

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を 1 回ないし 2 回程度かけて取り扱う (前学期第 1 回～15 回。ただし、定期試験を含む)。

- 発音
- 動詞の現在人称変化
- 冠詞と名詞
- 人称代名詞・冠詞類
- 定形の位置
- 前置詞
- 話法の助動詞
- 動詞の 3 基本形
- 現在完了形
- 分離動詞
- 形容詞
- 再帰動詞
- 分離動詞・es の用法
- 関係代名詞
- 受動
- 接続法
- 分詞・zu 不定詞

**5. 評価方法・基準**

前学期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算 (20% 程度) して評価する。加算後 60 点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

**7. 教科書・参考書**

- 教科書  
本郷健治他：CD 付き気分はドイツ (三修社)

**8. オフィスアワー等**

学生相談日を設定 (曜日、時間帯は総合教育棟 405 に掲示)

## 基礎ドイツ語A I Basic German A I

電気電子工学科 第一年次 前学期 選択必修 1単位  
担当教員 古賀 正之

## 1. 概要

- 授業の背景  
別項「外国語を学ぶ意義」を参照。
- 授業の目的  
別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。
- 授業の位置付け  
同上。

## 2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

## 3. 到達目標

独検4級程度のドイツ語の習得。

## 4. 授業計画

- {1} テーマ：あいさつ(1) / 人と知り合う / 紹介(名前・出身地・居住地・職業・趣味)  
文法：人称代名詞 / 動詞の現在人称変化(規則動詞, sein) / 疑問文の種類と答え方 / 疑問詞
- {2} テーマ：時刻 / あいさつ(2) / 時を表す表現(1) / 人を誘う / アドレスとケータイ番号を尋ねる / 食べ物と飲み物 / メール  
文法：動詞の現在人称変化(haben, 不規則動詞) / ドイツ語の語順(定動詞第2位の原則, 疑問文の語順)
- {3} テーマ：道を尋ね方・答え方 / 位置・方向を表す語 / 建物など / ~してください / 持ってる? 持っていない?  
文法：du と Sie / 命令形 / 名詞の性 / 定冠詞と不定冠詞 / 冠詞と名詞の格変化(1・4格) / 否定冠詞(1・4格) / 所有冠詞(1・4格)
- {4} テーマ：買い物 / 値段 / プレゼント / 気に入った? / 家族・親戚  
文法：名詞と冠詞の3格 / 複数形 / 人称代名詞の格変化 / 前置詞(1) / 否定の語を含む疑問文とその答え方
- {5} テーマ：週末や休暇の予定 / 天候 / 一日の行動・日常生活  
文法：分離動詞 / 前置詞と定冠詞の融合形 / 話法の助動詞 / 非人称のes / 日常生活で使う分離動詞 / 分離動詞に似た使い方をする表現 / 形容詞

\*上記の各ユニット {1} ~ {5} で取り扱う文法事項を用いて、学生自身が口頭表現練習を行い、発表する。1つのユニットはおよそ3回の授業で終了する予定。

## 5. 評価方法・基準

期末試験および演習(発表と受講態度)の結果で評価する。60点以上を合格とする。

## 6. 履修上の注意事項

特になし。

## 7. 教科書・参考書

[教科書] 飯田 / 江口: アプファールト スキットで学ぶドイツ語(三修社)

## 8. オフィスアワー

## 基礎ドイツ語A I Basic German A I

電気電子工学科 第1年次 前期 選択必修 1単位  
担当教員 岡野 裕司

## 1. 概要

- 授業の背景  
人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。  
我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。  
ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

## ●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

## ●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

## 2. キーワード

外国語、思考力、国際化

## 3. 到達目標

講義修了後には、辞書を用いて簡単なドイツ語の文章が独力で読めるようにする。

## 4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

- (1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期
  - ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
  - ・動詞の現在人称変化
  - ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化(人称代名詞も含めて)
- (2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期
  - ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
  - ・前置詞、形容詞・副詞の用法
  - ・ドイツ語文の大原則その2——副文
  - ・動詞の三基本形——過去と現在完了
- (3) 展開期——豊かな表現をめざして
  - ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
  - ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語A Iの授業では、上記の(1)導入期の内容を学習する。

## 5. 評価方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

## 6. 履修上の注意事項

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

## 7. 教科書・参考書

教科書：清水薫「改訂版/ドイツ文法 100語の世界」(同学社)  
参考書：授業中に適宜紹介する。

## 8. オフィスアワー等

別途掲示する。

**基礎ドイツ語 A I** Basic German A I

応用化学科 1組 第1年次 前期 (水曜3限) 選択必修  
1単位  
担当教員 岡野 裕司

**1. 概要**

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

**2. キーワード**

外国語、思考力、国際化

**3. 到達目標**

講義修了後には、辞書を用いて簡単なドイツ語の文章が独力で読めるようにする。

**4. 授業計画**

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化  
(人称代名詞も含めて)

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方  
——分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

- ・比較の仕方 ・zu 不定詞 ・受動態
- ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語 A I の授業では、上記 (1) 導入期の内容を学習する。

**5. 評価方法・基準**

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

**6. 履修上の注意事項**

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

**7. 教科書・参考書**

教科書：清野智昭「ドイツ語の時間 (話すための文法) 改訂版」  
(朝日出版社)

参考書：授業中に適宜紹介する。

**8. オフィスアワー等**

別途掲示する。

**基礎ドイツ語 A I** Basic German A I

応用化学科 第1年次 前期 選択必修 1単位  
担当教員 今井 敦

**1. 概要**

●授業の背景

画一的なもの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。後期の「基礎ドイツ語 A II」と連続した内容となる。

**2. キーワード**

基礎文法、発音、基本表現

**3. 到達目標**

後期の「基礎ドイツ語 A II」が終わった段階で、辞書を使えば簡単な文章なら読める、最低限必要な表現を何も見ずに言える、というところまで持って行く。

**4. 授業計画**

教科書は14課からなっているが、第7課まで進む予定。各課の構成は、基本的例文、文法事項の説明、練習問題、という3つの部分に分かれている。授業では2回に1課進む予定である。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみる。隔週で確認のための小テストを行う。さらに、1回毎に日常生活で最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習をする。

**5. 評価方法・基準**

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。学期末の筆記試験(2/3)および、小テストなど平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

**7. 教科書・参考書**

教科書：純・初級ドイツ文法 (新正書法版) 2000円

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

**8. 学生面会時間**

火曜日午後2時から午後6時(会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する)、またはその他の前もって予約した時間。個人研究室は総合教育棟3階東側313。

## 基礎ドイツ語 A I Basic German A I

マテリアル工学科 第1年次 前期 選択必修 1単位

担当教員 今井 敦

## 1. 概要

## ●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたととき、ようやく我々のものになると考えられる。

## ●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

## ●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。後期の「基礎ドイツ語 A II」と連続した内容となる。

## 2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

## 3. 到達目標

後期の「基礎ドイツ語 A II」が終わった段階で、辞書を使えば簡単な文章なら読める、最低限必要な表現を何も見ずに言える、というところまで持って行く。

## 4. 授業計画

教科書は14課からなっているが、第7課まで進む予定。各課の構成は、基本的例文、文法事項の説明、練習問題、という3つの部分に分かれている。授業では2回に1課進む予定である。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。隔週で確認のための小テストを行う。さらに、1回毎に日常生活で最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習をする。

## 5. 評価方法・基準

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。学期末の筆記試験(2/3)および、小テストなど平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

## 6. 履修上の注意事項

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

## 7. 教科書・参考書

教科書：純・初級ドイツ文法(新正書法版)2000円

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

## 8. 学生面会時間

火曜日午後2時から午後6時(会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する)、またはその他の前もって予約した時間。個人研究室は総合教育棟3階東側313。

## 基礎ドイツ語 A I Basic German A I

マテリアル工学科 第1年次 前学期 選択必修 1単位

担当教員 藤澤 正明

## 1. 概要

## ●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

## ●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

## ●授業の位置付け

2年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、選択ドイツ語につながる学力を修得する。

## 2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

## 3. 到達目標

ドイツ語文法の基本事項を理解し、日本語とは異なる新たな思考の枠組みに慣れるようにする。

## 4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を1回ないし2回程度かけて取り扱う(前学期第1回~15回。ただし、定期試験を含む)。

アルファベット、発音

現在人称変化

定冠詞と名詞・複数形

不定冠詞と冠詞類・並列接続詞

現在人称変化・命令形

人称代名詞・前置詞

形容詞の格変化

動詞の3基本形、過去人称変化

完了形、比較変化

話法の助動詞・未来形・従属接続詞

分離動詞・zu不定詞句

再帰動詞・分詞

指示代名詞・関係代名詞

受動態

接続法

## 5. 評価方法・基準

前学期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

## 6. 履修上の注意事項

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

## 7. 教科書・参考書

## ●教科書

西本美彦他：文法システム15-新改訂版(同学社)

## 8. オフィスアワー等

学生相談日を設定(曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示)

**基礎ドイツ語 A I** Basic German A I

総合システム工学科 第1年次 前期 選択必修 1単位

担当教員 今井 敦

**1. 概要**

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。後期の「基礎ドイツ語 A II」と連続した内容となる。

**2. キーワード**

基礎文法、発音、基本表現

**3. 到達目標**

後期の「基礎ドイツ語 A II」が終わった段階で、辞書を使えば簡単な文章なら読める、最低限必要な表現を何も見ずに言える、ということまで持って行く。

**4. 授業計画**

教科書は14課からなっているが、第7課まで進む予定。各課の構成は、基本的例文、文法事項の説明、練習問題、という3つの部分に分かれている。授業では2回に1課進む予定である。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。隔週で確認のための小テストを行う。さらに、1回毎に日常生活で最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習をする。

**5. 評価方法・基準**

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。学期末の筆記試験(2/3)および、小テストなど平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

**7. 教科書・参考書**

教科書：純・初級ドイツ文法(新正書法版)2000円

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

**8. 学生面会時間**

火曜日午後2時から午後6時(会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する)、またはその他の前もって予約した時間。個人研究室は総合教育棟3階東側313。

**基礎ドイツ語 A II** Basic German A II

機械知能工学科 第1年次 後期 選択必修 1単位

担当教員 今井 敦

**1. 概要**

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。前期の「基礎ドイツ語 A I」と連続した内容となる。

**2. キーワード**

基礎文法、発音、基本表現

**3. 到達目標**

辞書を使えば簡単な文章なら読める、最低限必要な表現を何も見ずに言える、ということまで持って行く。

**4. 授業計画**

教科書は14課からなっているが、第8課から始める予定。各課の構成は、基本的例文、文法事項の説明、練習問題、という3つの部分に分かれている。授業では2回に1課進む予定である。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。1回の授業ごとに日常生活で最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習をする。

**5. 評価方法・基準**

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験(2/3)および、平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

**7. 教科書・参考書**

教科書：純・初級ドイツ文法(新正書法版)2000円

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

**8. 学生面会時間**

火曜日午後2時から午後6時(会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する)、またはその他の前もって予約した時間。個人研究室は総合教育棟3階東側313。

## 基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

機械知能工学科 2組 第1年次 後期 選択必修 1単位

担当教員 岡野 裕司

## 1. 概要

## ●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

## ●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

## ●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

## 2. キーワード

外国語、思考力、国際化

## 3. 到達目標

講義修了後には、辞書を用いて簡単なドイツ語の文章が独力で読めるようにする。

## 4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

## (1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化  
(人称代名詞も含めて)

## (2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方  
——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了

## (3) 展開期——豊かな表現をめざして

- ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
- ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語AⅡの授業では、上記(2)、(3)の内容を学習する。

## 5. 評価方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

## 6. 履修上の注意事項

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

## 7. 教科書・参考書

教科書：齊藤他著「若草のドイツ語文法」三修社

参考書：授業中に適宜紹介する。

## 8. オフィスアワー等

別途掲示する。

## 基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

機械知能工学科・建設社会工学科 第1年次 後学期 選択必修

1単位

担当教員 藤澤 正明

## 1. 概要

## ●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

## ●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

## ●授業の位置付け

2年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、選択ドイツ語につながる学力を修得する。

## 2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

## 3. 到達目標

ドイツ語文法の基本事項を理解し、日本語とは異なる新たな思考の枠組みに慣れるようにする。

## 4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を1回ないし2回程度かけて取り扱う(後学期第1回~15回。ただし、定期試験を含む)。

## 発音

動詞の現在人称変化

冠詞と名詞

人称代名詞・冠詞類

定形の位置

前置詞

話法の助動詞

動詞の3基本形

現在完了形

分離動詞

形容詞

再帰動詞

分離動詞・esの用法

関係代名詞

受動

接続法

分詞・zu不定詞

## 5. 評価方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

## 6. 履修上の注意事項

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

## 7. 教科書・参考書

## ●教科書

本郷健治他：CD付き気分はドイツ(三修社)

## 8. オフィスアワー等

学生相談日を設定(曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示)

**基礎ドイツ語A II** Basic German A II

建設社会工学科 第一年次 後学期 選択必修 1単位  
担当教員 古賀 正之

**1. 概要**

- 授業の背景  
別項「外国語を学ぶ意義」を参照。
- 授業の目的  
別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。
- 授業の位置付け  
同上。

**2. キーワード**

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

**3. 到達目標**

独検4級程度のドイツ語の習得。

**4. 授業計画**

- {6} カフェで注文する／食生活について述べる  
文法：前置詞と格支配（1）／前置詞の融合形  
話法の助動詞（2）
- {7} 時刻表現とスケジュールについて述べる／居場所と目的地  
について述べる  
文法：時を表わす前置詞  
分離動詞  
前置詞の格支配（2）
- {8} 道案内／日程・予定について述べる／施設・行事の有無を  
聞く  
文法：命令形  
序数
- {9} 過去の事柄・経験について述べる  
文法：sein と haben の過去人称変化  
現在完了形  
過去分詞の作り方
- {10} 文法：副文  
従属の接続詞

\*上記の各ユニット {6} ～ {10} で取り扱う文法事項を用いて、  
学生自身が口頭表現練習を行い、発表する。1つのユニットは  
およそ3回の授業で終了する予定。

**5. 評価方法・基準**

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60  
点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

特になし。

**7. 教科書・参考書**

[教科書] シュミット／山口 ドイツ語案内板（同学社）

**8. オフィスアワー**

**基礎ドイツ語A II** Basic German A II

電気電子工学科 第1年次 後学期 選択必修 1単位  
担当教員 藤澤 正明

**1. 概要**

- 授業の背景  
言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション  
能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付  
き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世  
界の中において個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必  
須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習する  
ことによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってもの  
を考える力を養う。

●授業の位置付け

2年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習  
し、選択ドイツ語につながる学力を修得する。

**2. キーワード**

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

**3. 到達目標**

ドイツ語文法の基本事項を理解し、日本語とは異なる新たな思  
考の枠組みに慣れるようにする。

**4. 授業計画**

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を1回ないし2回程度  
かけて取り扱う（後学期第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

- 発音
- 動詞の現在人称変化
- 冠詞と名詞
- 人称代名詞・冠詞類
- 定形の位置
- 前置詞
- 話法の助動詞
- 動詞の3基本形
- 現在完了形
- 分離動詞
- 形容詞
- 再帰動詞
- 分離動詞・esの用法
- 関係代名詞
- 受動
- 接続法
- 分詞・zu不定詞

**5. 評価方法・基準**

後学期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算（20%程  
度）して評価する。加算後60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

**7. 教科書・参考書**

- 教科書  
本郷健治他：CD付き気分はドイツ（三修社）

**8. オフィスアワー等**

学生相談日を設定（曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示）

## 基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

電気電子工学科 第一年次 後学期 選択必修 1単位  
担当教員 古賀 正之

## 1. 概要

- 授業の背景  
別項「外国語を学ぶ意義」を参照。
- 授業の目的  
別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。
- 授業の位置付け  
同上。

## 2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

## 3. 到達目標

独検4級程度のドイツ語の習得。

## 4. 授業計画

- {6} テーマ：過去のできごと(1)／時を表す表現(2)  
文法：過去分詞／現在完了
- {7} テーマ：過去のできごと(2)／位置の表現／～がある／遅刻／メルヒェン  
文法：過去基本形／過去時制／前置詞(2)／es gibt…
- {8} テーマ：修理／家事／開店時間・閉店時間／料理／比較の表現  
文法：受動文／再帰代名詞と再帰動詞／比較級・最上級
- {9} テーマ：ふたつの文をひとつにする／病気／色  
文法：zu不定詞句／従属の接続詞と副文
- {10} テーマ：非現実の仮定  
文法：接続法2式(非現実話法)

\*上記の各ユニット {6}～{10} で取り扱う文法事項を用いて、学生自身が口頭表現練習を行い、発表する。1つのユニットはおよそ3回の授業で終了する予定。

## 5. 評価方法・基準

期末試験および演習(発表と受講態度)の結果で評価する。60点以上を合格とする。

## 6. 履修上の注意事項

特になし。

## 7. 教科書・参考書

[教科書] 飯田／江口：アプファールト スキットで学ぶドイツ語(三修社)

## 8. オフィスアワー

## 基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

電気電子工学科 第1年次 後期 選択必修 1単位  
担当教員 岡野 裕司

## 1. 概要

- 授業の背景  
人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。  
我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。  
ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

## ●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

## ●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

## 2. キーワード

外国語、思考力、国際化

## 3. 到達目標

講義修了後には、辞書を用いて簡単なドイツ語の文章が独力で読めるようにする。

## 4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

- (1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期
  - ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
  - ・動詞の現在人称変化
  - ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化(人称代名詞も含めて)
- (2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期
  - ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
  - ・前置詞、形容詞・副詞の用法
  - ・ドイツ語文の大原則その2——副文
  - ・動詞の三基本形——過去と現在完了
- (3) 展開期——豊かな表現をめざして
  - ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
  - ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語AⅡの授業では、上記(2)、(3)の内容を学習する。

## 5. 評価方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

## 6. 履修上の注意事項

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

## 7. 教科書・参考書

教科書：清水薫「改訂版/ドイツ文法 100語の世界」(同学社)  
参考書：授業中に適宜紹介する。

## 8. オフィスアワー等

別途掲示する。

**基礎ドイツ語 A II** Basic German A II

応用化学科 1組 第1年次 後期（水曜3限） 選択必修  
1単位  
担当教員 岡野 裕司

**1. 概要**

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

**2. キーワード**

外国語、思考力、国際化

**3. 到達目標**

講義修了後には、辞書を用いて簡単なドイツ語の文章が独力で読めるようにする。

**4. 授業計画**

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化  
(人称代名詞も含めて)

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方  
——分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

- ・比較の仕方 ・zu 不定詞 ・受動態
- ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語 A II の授業では、上記 (2)、(3) の内容を学習する。

**5. 評価方法・基準**

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

**6. 履修上の注意事項**

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

**7. 教科書・参考書**

教科書：清野智昭「ドイツ語の時間（話すための文法）改訂版」（朝日出版社）

参考書：授業中に適宜紹介する。

**8. オフィスアワー等**

別途掲示する。

**基礎ドイツ語 A II** Basic German A II

応用化学科 第1年次 後期 選択必修 1単位  
担当教員 今井 敦

**1. 概要**

●授業の背景

画一的なもの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。前期の「基礎ドイツ語 A I」と連続した内容となる。

**2. キーワード**

基礎文法、発音、基本表現

**3. 到達目標**

辞書を使えば簡単な文章なら読める、最低限必要な表現を何も見ずに言える、ということまで持って行く。

**4. 授業計画**

教科書は14課からなっているが、第8課から始める予定。各課の構成は、基本的例文、文法事項の説明、練習問題、という3つの部分に分かれている。授業では2回に1課進む予定である。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。1回の授業ごとに日常生活で最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習をする。

**5. 評価方法・基準**

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験（2/3）および、平常点（1/3）で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

**7. 教科書・参考書**

教科書：純・初級ドイツ文法（新正書法版）2000円

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

**8. 学生面会時間**

火曜日午後2時から午後6時（会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する）、またはその他の前もって予約した時間。個人研究室は総合教育棟3階東側313。

## 基礎ドイツ語 A II Basic German A II

マテリアル工学科 第1年次 後期 選択必修 1単位

担当教員 今井 敦

## 1. 概要

## ●授業の背景

画一的なものの方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

## ●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

## ●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。前期の「基礎ドイツ語 A I」と連続した内容となる。

## 2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

## 3. 到達目標

辞書を使えば簡単な文章なら読める、最低限必要な表現を何も見ずに言える、ということまで持って行く。

## 4. 授業計画

教科書は14課からなっているが、第8課から始める予定。各課の構成は、基本的例文、文法事項の説明、練習問題、という3つの部分に分かれている。授業では2回に1課進む予定である。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。1回の授業ごとに日常生活で最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習をする。

## 5. 評価方法・基準

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験(2/3)および、平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

## 6. 履修上の注意事項

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

## 7. 教科書・参考書

教科書：純・初級ドイツ文法(新正書法版)2000円

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

## 8. 学生面会時間

火曜日午後2時から午後6時(会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する)、またはその他の前もって予約した時間。個人研究室は総合教育棟3階東側313。

## 基礎ドイツ語 A II Basic German A II

マテリアル工学科 第1年次 後学期 選択必修 1単位

担当教員 藤澤 正明

## 1. 概要

## ●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

## ●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

## ●授業の位置付け

1年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、選択ドイツ語につながる学力を修得する。

## 2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

## 3. 到達目標

ドイツ語文法の基本事項を理解し、日本語とは異なる新たな思考の枠組みに慣れるようにする。

## 4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を1回ないし2回程度かけて取り扱う(後学期第1回~15回。ただし、定期試験を含む)。

アルファベット、発音

現在人称変化

定冠詞と名詞・複数形

不定冠詞と冠詞類・並列接続詞

現在人称変化・命令形

人称代名詞・前置詞

形容詞の格変化

動詞の3基本形、過去人称変化

完了形、比較変化

話法の助動詞・未来形・従属接続詞

分離動詞・zu不定詞句

再帰動詞・分詞

指示代名詞・関係代名詞

受動態

接続法

## 5. 評価方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

## 6. 履修上の注意事項

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

## 7. 教科書・参考書

## ●教科書

西本美彦他：文法システム15-新改訂版(同公社)

## 8. オフィスアワー等

学生相談日を設定(曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示)

**基礎ドイツ語 A II** Basic German A II

総合システム工学科 第1年次 後期 選択必修 1単位  
担当教員 今井 敦

**1. 概要**

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。前期の「基礎ドイツ語 A I」と連続した内容となる。

**2. キーワード**

基礎文法、発音、基本表現

**3. 到達目標**

辞書を使えば簡単な文章なら読める、最低限必要な表現を何も見ずに言える、ということまで持って行く。

**4. 授業計画**

教科書は14課からなっているが、第8課から始める予定。各課の構成は、基本的例文、文法事項の説明、練習問題、という3つの部分に分かれている。授業では2回に1課進む予定である。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。1回の授業ごとに日常生活で最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習をする。

**5. 評価方法・基準**

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験(2/3)および、平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

**7. 教科書・参考書**

教科書：純・初級ドイツ文法(新正書法版)2000円

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

**8. 学生面会時間**

火曜日午後2時から午後6時(会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する)、またはその他の前もって予約した時間。個人研究室は総合教育棟3階東側313。

**基礎ドイツ語 B** Basic German B

機械知能工学科・建設社会工学科 第2年次 前期または後期 選択必修 1単位

担当教員 ドイツ語担当教員

**1. 概要**

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1年次に行われる基礎ドイツ語 A と共にドイツ語の基礎を学習し、選択ドイツ語につながる学力を修得する。

**2. キーワード**

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

**3. 到達目標**

ドイツ語の基本的表現を理解し、日本語とは異なる新たな文化形式に慣れるようにする。

**4. 授業計画**

教科書の順序に従って下記の諸項目を1回ないし2回程度かけて取り扱う(第1回~15回。ただし、定期試験を含む)。

Blümchen

Julianne Werding

Nena

Silbermond

böhse onkelz

Samajona

Münchner Freiheit

Rosenstolz

Juli

Space Kelly

band ohne namen

Klee

2 raumwohnung

**5. 評価方法・基準**

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

**7. 教科書・参考書**

●教科書

鈴木康志他：D-Pop で学ぶドイツ語！(同学社)

**8. オフィスアワー等**

学生相談日を設定(曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示)

## 基礎ドイツ語B Basic German B

電気電子工学科・総合システム工学科 第2年次 前期または後期  
 選択必修 1単位  
 担当教員 ドイツ語担当教員

## 1. 概要

## ●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

## ●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

## ●授業の位置付け

1年次に行われる基礎ドイツ語Aと共にドイツ語の基礎を学習し、選択ドイツ語につながる学力を修得する。

## 2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

## 3. 到達目標

ドイツ語の基本的表現を理解し、日本語とは異なる新たな文化形式に慣れるようにする。

## 4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を1回ないし2回程度かけて取り扱う(第1回～15回。ただし、定期試験を含む)。

空港で

ミュラー家で

デパートで

駅で

ベルリン動物園

ペーターの11歳の誕生日

オペラ鑑賞

ミュンヘン旅行

ミュンヘンで

病気

授業で

別れ

## 5. 評価方法・基準

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

## 6. 履修上の注意事項

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

## 7. 教科書・参考書

## ●教科書

河合節子他：はじめてのドイツ語—使えるドイツ語表現(三訂版)(三修社)

## 8. オフィスアワー等

学生相談日を設定(曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示)

## 基礎ドイツ語B(再履修者用)

応用化学科・マテリアル工学科 第2年次 前期または後期 選択必修 1単位  
 担当教員 ドイツ語担当教員

## 1. 概要

## ●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

## ●授業の目的

基礎ドイツ語Aで学ぶ文法知識を基に、ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

## ●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

## 2. キーワード

外国語、思考力、国際化

## 3. 到達目標

ドイツ語の文章を多く読んだり、作文や会話練習などで表現力を増すことで、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション能力を養う。

## 4. 授業計画

ドイツ語学習の初期段階において学ぶ内容を大別すると次のようになる。

## (1) 導入期—ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則—文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割—名詞の性と定冠詞の変化  
(人称代名詞も含めて)

## (2) 定着期—ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方  
—分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その2—副文
- ・動詞の三基本形—過去と現在完了

## (3) 展開期—豊かな表現をめざして

- ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
- ・関係代名詞 ・接続法 など。

この講義では、(1)導入期の基礎固めと(2)定着期に含まれる内容のいくつかを徹底的に学習する。

練習問題中心の教科書を用い、独作文を中心にドイツ語の表現力・理解力を養う。また、必要に応じてプリントも用いる。

## 5. 評価方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

## 6. 履修上の注意事項

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

## 7. 教科書・参考書

教科書：「行ってみたいな ドイツ」郁文堂

参考書：授業中に適宜紹介する。

## 8. オフィスアワー等

別途掲示する。

**選択ドイツ語A** Elective German A

全学科 第1年次 後学期 選択 1単位

担当教員 藤澤 正明

**1. 概要**

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

ドイツのポップスやロックを扱った平明なテキストを素材にして、音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解し発展させる。

●授業の位置付け

基礎ドイツ語Aで修得したドイツ語の基礎を発展させ、2年次のドイツ語へつながる学力を養成する。

**2. キーワード**

ドイツ語、ドイツ、言葉、文化、国際性

**3. 到達目標**

ドイツ語の基本的表現を理解し、日本語とは異なる新たな文化形式に習熟する。

**4. 授業計画**

教科書の順序に従って下記の諸項目を1回ないし2回程度かけて取り扱う（第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

Blümchen  
Julianne Werding  
Nena  
Silbermond  
böhmischer Onkel  
Samajona  
Münchner Freiheit  
Rosenstolz  
Juli  
Space Kelly  
band ohne namen  
Klee  
2 raumwohnung

**5. 評価方法・基準**

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算（20%程度）して評価する。加算後60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

**7. 教科書・参考書**

●教科書

鈴木康志他：D-Pop で学ぶドイツ語！（同学社）

**8. オフィスアワー等**

学生相談日を設定（曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示）

**選択ドイツ語A** Elective German A

全学科 第2年次 前学期 選択 1単位

担当教員 藤澤 正明

**1. 概要**

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

平明なテキストを素材にして、音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解し発展させる。

●授業の位置付け

基礎ドイツ語Aで修得したドイツ語の基礎を発展させ、次の段階のドイツ語へつながる学力を養成する。

**2. キーワード**

ドイツ語、ドイツ、言葉、文化、国際性

**3. 到達目標**

ドイツ語の基本的表現を理解し、日本語とは異なる新たな文化形式に習熟する。

**4. 授業計画**

教科書の順序に従って下記の諸項目を1回ないし2回程度かけて取り扱う（第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

空港で  
ミュラー家で  
デパートで  
駅で  
ベルリン動物園  
ペーターの11歳の誕生日  
オペラ鑑賞  
ミュンヘン旅行  
ミュンヘンで  
病気  
授業で  
別れ

**5. 評価方法・基準**

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算（20%程度）して評価する。加算後60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

**7. 教科書・参考書**

●教科書

河合節子他：はじめてのドイツ語一使えるドイツ語表現（三訂版）（三修社）

**8. オフィスアワー等**

学生相談日を設定（曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示）

## 選択ドイツ語A Elective German A

全学科 第1年次 後期 火曜4限 選択 1単位

担当教員 岡野 裕司

### 1. 概要

#### ●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

#### ●授業の目的

ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

#### ●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

### 2. キーワード

外国語、思考力、国際化

### 3. 到達目標

生活のさまざまな場面に応じたビデオ教材を用い、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション能力を養う。

### 4. 授業計画

ビデオを参考にしながらドイツ語の文章に慣れ、練習問題を通じて知識を確実なものにしていく。

### 5. 評価方法・基準

毎回の課題作成により評価し、60%以上を合格とする。授業への参加度が評価のプラスポイントとなる。

### 6. 履修上の注意事項

学生諸君の積極的な授業参加を期待する。

### 7. 教科書・参考書

教科書：清野智昭「ドイツ語の時間

(ビデオ教材 恋するベルリン) DVDつき」(朝日出版社)

参考書：授業中に適宜紹介する。

### 8. オフィスアワー等

別途掲示する。

## 選択ドイツ語A Elective German A

全学科 第1年次 後期 水曜5限 選択 1単位

担当教員 岡野 裕司

### 1. 概要

#### ●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

#### ●授業の目的

ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

#### ●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

### 2. キーワード

外国語、思考力、国際化

### 3. 到達目標

ドイツ語の文章を多く読んだり、作文や会話練習などで表現力を増すことで、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション能力を養う。

### 4. 授業計画

毎週1ページ強のドイツ語の文章を読み、練習問題を通じて知識を確実なものにしていく。教科書のみならず、必要に応じてプリント等で独作文の練習も行う。

### 5. 評価方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

### 6. 履修上の注意事項

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

### 7. 教科書・参考書

教科書：小塩節著「希望のドイツ語(新訂版)」朝日出版社

参考書：授業中に適宜紹介する。

### 8. オフィスアワー等

別途掲示する。

## 選択ドイツ語A Elective German A

全学科 第2年次 前期 選択 1単位

担当教員 今井 敦

### 1. 概要

#### ●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

#### ●授業の目的

基礎ドイツ語A、基礎ドイツ語Bで学んだ知識をもとに、その知識を生きたものとして使いこなすことができるようにする。それを通じてドイツ語圏の文化や社会に出会う。

#### ●授業の位置付け

頭で知っている、というレベルから、自らの技能として身に付ける、というレベルへの発展。つまり、基礎段階の完成、ドイツ語学習の始まりの終わり。

### 2. キーワード

会話表現、平易な文章の読解、コミュニケーション、文化事情

### 3. 到達目標

半年の授業では到底充分ではないが、辞書を使えば簡単な文章を独力で正確に読める、最低限必要な表現を何も見ずに正しい発音で言える、というところまで持って行く。

### 4. 授業計画

第1回：アルファベットと発音の復習

第2回：紹介する・動詞の復習

第3回：冠詞と名詞の格変化の復習

第4回：前置詞の復習

第5回：話法の助動詞、再帰動詞の復習

第6回：分離動詞・未来形の復習

第7回：比較の復習

第8回：形容詞の格変化の復習

第9回：現在完了の復習

第10回：過去形の復習

第11回：接続詞の復習

第12回：受動態の復習

第13回：関係代名詞の復習

第14回：接続法の復習

第15回：試験

### 5. 評価方法・基準

学期末に筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験(2/3)および、平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

### 6. 履修上の注意事項

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

### 7. 教科書・参考書

教科書：西村祐子著『改訂版 ドイツ語へようこそ！』（同学社）840/N-6

参考書：一年のときに使った文法の教科書（予習の際参照すること）

### 8. 学生面会時間

火曜日午後2時から午後6時（会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する）、またはその他の前もって予約した時間。個人研究室は総合教育棟3階東側313。

## 選択ドイツ語B I Elective German B I

全学科 第2年次 前学期 選択 1単位

担当教員 Andreas Kasjan

### 1. 目的

教師が知識としてのドイツ語を教えるだけでなく、学生がドイツ語を正確に、創造的に使うことが出来るようになることを目指す。

### 2. 授業計画

最初または第2週目の授業に出す。

### 3. 評価方法

毎授業のはじめに小テストをするが、学生には積極的に授業に参加したり協力したりしてほしい。期末試験も実施する。

### 4. 授業の進め方

先ず、ある会話のセンテンスを一つ一つ説明したり、その発音を練習したりしたうえ、きちんと覚えさせ、暗記した会話をロールプレーにする。次は、身につけたセンテンスから基本的な文法事項を取り出しながら、言い替える練習などをする。最後のステップとして、学生に自分で特定のテーマについて二人以上でドイツ語によるロールプレーの台詞を作って、それを演じてもらう。ドイツ語を授業言語にする一方、新しいことを導入したり練習したりする時には、日本語を体系的に使う。

### 5. 教科書・参考書

プリントを配布する。

必要な教材など：

独和辞書

マジック（ブルー、レッド、イエロー、グリーン）

## 選択ドイツ語B I・選択ドイツ語C I

全学科 第2・3年次 前期 火曜5限 選択 1単位

担当教員 岡野 裕司

### 1. 概要

#### ●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

#### ●授業の目的

基礎ドイツ語Aで学ぶ文法知識を基に、ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

#### ●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

### 2. キーワード

外国語、思考力、国際化

### 3. 到達目標

ドイツ語の文章を多く読んだり、作文や会話練習などで表現力を増すことで、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション能力を養う。

### 4. 授業計画

毎週1ページ強のドイツ語の文章を読み、練習問題を通じて知識を確実なものにしていく。教科書のみならず、必要に応じてプリント等で独作文の練習も行う。

### 5. 評価方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

### 6. 履修上の注意事項

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

### 7. 教科書・参考書

教科書：橋本他「グレードアップドイツ語 - 初級から中級へ」  
郁文堂

参考書：授業中に適宜紹介する。

### 8. オフィスアワー等

別途掲示する。

## 選択ドイツ語B II Elective German B II

全学科 第2年次 後期 選択 1単位

担当教員 今井 敦

### 1. 概要

#### ●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

#### ●授業の目的

これまで習得したドイツ語力をさらに発展させることを通じて、論理的に物事を考える力、テキストを正しく理解する力を養成する。ドイツ語圏の文化・社会・歴史に関してその様々な側面を知る。

#### ●授業の位置付け

初級文法や基本表現などを身につけたあと、ようやく本当の創造的なドイツ語の学習が始まる。それがこの授業である。

### 2. キーワード

文化事情、読解、コミュニケーション

### 3. 到達目標

どんなドイツ語の文章を前にしても、辞書があればゆっくりではあっても正確に理解できる、というレベルに持って行く。自分の考えたことを片言のドイツ語ではあっても言えるようにする。

### 4. 授業計画

初回の授業の際、手作りの教科書を配布する。授業はそれにそって行うが、随時、ドイツ語圏の文化を知るための教材（音声、ビデオ、プリント等）を別に用意する。

### 5. 評価方法・基準

学期末に筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験（2/3）および、平常点（1/3）で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

### 6. 履修上の注意事項

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

### 7. 教科書・参考書

教科書：第一回目の授業の際に配布する

参考書：1年生のときに使った文法の教科書（予習の際繰り返し参照すること）

### 8. 学生面会時間

火・木曜のそれぞれ午後2時から午後5時（会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する）、またはその他の前もって予約した時間。個人研究室は総合教育棟3階東側313。

## 選択ドイツ語B II Elective German B II

全学科 第2年次 後学期 選択 1単位

担当教員 Andreas Kasjan

### 1. 目的

ドイツ語の一步進んだ文法事項（動詞と話法の助動詞の接続法や zu 不定詞など）やパターン（副文）を練習することにより、複雑な表現に対する応用能力を身に付ける。

### 2. 授業計画

最初または第2週目の授業に出す。

### 3. 評価方法

授業でのパフォーマンス（50%）および毎回行う小テスト含んだ授業でのパフォーマンス（50%）によって出す。

### 4. 授業の進め方

ドイツ語によるラジオプレイの台詞を一部ずつで、徹底的に暗記して、ロールプレイをする。次に、身に付けた表現から基本的な文法事項を取り出しながら、様々な練習をする。最後に、学生がドイツ語による自分でラジオプレイをする。

### 5. 教科書・参考書

プリントを配布する。

必要な教材など：

独和辞書

マジック（ブルー、レッド、イエロー、グリーン）

オーディオ・カセット又はMD（60分）

## 基礎中国語 A I Basic Chinese A I

機械知能・建設社会 1年次 前期 選択必修 1単位

担当教員：一木 達彦

## 1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができよう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

## 2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

## 3. 到達目標

中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語の基礎文法事項を中心に学んでいく。あわせて中国理解を深める。

## 4. 授業計画

- 第1回 中国語概説
- 第2回 発音(1)単母音、声調
- 第3回 発音(2)子音、複母音
- 第4回 発音(3)鼻母音、声調変化
- 第5回 発音(4)発音のまとめ
- 第6回 第1課
- 第7回 復習
- 第8回 第2課
- 第9回 復習
- 第10回 第3課
- 第11回 復習
- 第12回 第4課
- 第13回 復習
- 第14回 第5課
- 第15回 試験

## 5. 評価方法・基準

定期試験(70%)、小テスト・出席点(30%)

60点以上を合格とする。

## 6. 履修上の注意事項

履修者が各クラスにつき45人以上に達した場合、抽選を行うので、履修希望者は前期の第一日目の授業時に、必ず出席すること。出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

## 7. 教科書・参考書

教科書：1冊めの中国語《会話クラス》 劉穎・喜多山幸子・松田かの子 白水社

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社

## 8. オフィスアワー等

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

## 基礎中国語 A I Basic Chinese A I

電気電子・総合システム 1年次 前期 選択必修 1単位

担当教員：一木 達彦

## 1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができよう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

## 2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

## 3. 到達目標

中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語の基礎文法事項を中心に学んでいく。あわせて中国理解を深める。

## 4. 授業計画

- 第1回 中国語概説
- 第2回 発音(1)単母音、声調
- 第3回 発音(2)子音、複母音
- 第4回 発音(3)鼻母音、声調変化
- 第5回 発音(4)発音のまとめ
- 第6回 第1課
- 第7回 復習
- 第8回 第2課
- 第9回 復習
- 第10回 第3課
- 第11回 復習
- 第12回 第4課
- 第13回 復習
- 第14回 第5課
- 第15回 試験

## 5. 評価方法・基準

定期試験(70%)、小テスト・出席点(30%)

60点以上を合格とする。

## 6. 履修上の注意事項

履修者が各クラスにつき45人以上に達した場合、抽選を行うので、履修希望者は前期の第一日目の授業時に、必ず出席すること。出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

## 7. 教科書・参考書

教科書：1冊めの中国語《会話クラス》 劉穎・喜多山幸子・松田かの子 白水社

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社

## 8. オフィスアワー等

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

## 基礎中国語 A I Basic Chinese A I

応用化学科、マテリアル工学科 1年次 前期 選択必修 1単位  
担当教員 板谷 秀子

### 1. 概要

中国語の習得方法には2通りある。視角から（字を判別する）入る道と、聴覚から（発音し、聴き取る）入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話（中国の標準語）の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

### 2. キーワード

外国語としての中国語・簡体字・隣国は異文化

### 3. 到達目標

普通話の正確な発音、初級会話のヒアリング力

### 4. 授業計画

1. 中国語 概説 中国語のおもしろさ
2. 発音基礎練習 声調
3. 発音基礎練習 母音
4. 発音基礎練習 子音
5. 発音基礎練習 有気音・無気音
6. テキスト第一課 疑問文①名前をたずねる
7. テキスト第二課 疑問詞疑問文 何を飲む？
8. テキスト第三課 動詞の使い方 何しているの？
9. //
10. テキスト第四課 形容詞の使い方 新車は？
11. //
12. テキスト第五課 助動詞の使い方 できますか？
13. //
14. 総復習
15. 定期試験

### 5. 評価方法・基準

基準

定期試験90%、平常点10%、60点以上を合格とする。

### 6. 履修上の注意事項

出席重視 2/3以上の出席必須。

### 7. 教科書・参考書

教科書：北京コレクション入門編（朝日出版社）

## 基礎中国語 A II Basic Chinese A II

機械知能・建設社会 1年次 後期 選択必修 1単位  
担当教員：一木 達彦

### 1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができよう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

### 2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

### 3. 到達目標

中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語の基礎文法事項を中心に学んでいく。あわせて中国理解を深める。

### 4. 授業計画

- 第1回 復習
- 第2回 第6課
- 第3回 復習
- 第4回 第7課
- 第5回 復習
- 第6回 第8課
- 第7回 復習
- 第8回 第9課
- 第9回 復習
- 第10回 第10課
- 第11回 復習
- 第12回 第11課
- 第13回 復習
- 第14回 第12課
- 第15回 試験

### 5. 評価方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）

60点以上を合格とする。

### 6. 履修上の注意事項

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

### 7. 教科書・参考書

教科書：1冊めの中国語《会話クラス》 劉穎・喜多山幸子・松山かの子 白水社

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社

### 8. オフィスアワー等

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

## 基礎中国語 A II Basic Chinese AII

電気電子・総合システム 1年次 後期 選択必修 1単位

担当教員：一木 達彦

## 1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができよう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

## 2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

## 3. 到達目標

中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語の基礎文法事項を中心に学んでいく。あわせて中国理解を深める。

## 4. 授業計画

第1回 復習  
第2回 第6課  
第3回 復習  
第4回 第7課  
第5回 復習  
第6回 第8課  
第7回 復習  
第8回 第9課  
第9回 復習  
第10回 第10課  
第11回 復習  
第12回 第11課  
第13回 復習  
第14回 第12課  
第15回 試験

## 5. 評価方法・基準

定期試験(70%)、小テスト・出席点(30%)

60点以上を合格とする。

## 6. 履修上の注意事項

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

## 7. 教科書・参考書

教科書：1冊めの中国語《会話クラス》 劉穎・喜多山幸子・松山かの子 白水社

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社

## 8. オフィスアワー等

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

## 基礎中国語 A II Basic Chinese A II

応用化学科、マテリアル工学科 1年次 後期 選択必修 1単位

担当教員 板谷 秀子

## 1. 概要

中国語の習得方法には2通りある。視覚から(字を識別する)入る道と、聴覚から(発音し、聞き取る)入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話(中国の標準語)の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

## 2. キーワード

外国語としての中国語・簡体字・繁体字・隣国は異文化

## 3. 到達目標

普通話の正確な発音、初級会話のヒアリング力。

## 4. 授業計画

1. 中国映画上映  
2. テキスト第六課 結果補語  
3. テキスト第六課 可能ですか？  
4. テキスト第七課 数量表現  
5. テキスト第七課 いくらですか？  
6. テキスト第八課 時間表現  
7. テキスト第九課 方位名詞  
8. テキスト第十課 食事の会話  
9. テキスト第十課 メニューの読み方  
10. テキスト第十一課 京劇  
11. テキスト第十一課 様態補語  
12. テキスト第十二課 オリンピック  
13. テキスト第十二課 強調表現  
14. 総合復習  
15. 定期試験

## 5. 評価方法・基準

定期試験90%、平常点10%、60点以上を合格とする

## 6. 履修上の注意事項

出席重視、2/3以上の出席必須。

## 7. 教科書・参考書

教科書：北京コレクション入門編(朝日出版)

## 8. オフィスアワー等

E-mail: xiuzi 2004@s 3.dion.ne.jp

**基礎中国語 B** Basic Chinese B

機械知能工学科、建設社会工学科 2年次 前期または後期 選択必修

1単位

担当教員 岡村 真寿美

**1. 概要**

隣国中国との関係は近年ますます深いものとなり、学生諸君それぞれが、将来かなり高い確率で中国と何らかの関わりを持つであろうことが予想される時代である。履修者はそのような将来を見据えて、各人しっかりと目的意識を持って授業に臨むことが重要である。

とはいえ、一つの言語をそう簡単に習得できるはずがないこともまた事実である。「中国語は同じ漢字を使う言語なので、履修しやすい」ということに甘えていては、上達は難しいだろう。本講義は、すでに習得した発音、基礎的な文法を復習し、「ことば」として使うことができるよう繰り返し練習する。まずは中国語を使うことに慣れ、自分の「中国語力」のレベルをたかめて、次のステップへつなげる足がかりとしてほしい。

**2. キーワード**

中国 外国語 異文化

**3. 到達目標**

- ① 発音を正確にマスターする
- ② 基礎的な文法をマスターする
- ③ 使えるようにする
- ④ 中国に対する知識を増やす

**4. 授業計画**

- 1. 受講のためのガイダンス・発音の復習（第1課～3課「まとめ」）
- 2. 「是」を使った述語文（第4課）
- 3. “ ”
- 4. 量詞・指示代名詞（第5課）
- 5. “ ”
- 6. 形容詞述語文（第6課）
- 7. “ ”
- 8. 動詞述語文（第7課）
- 9. “ ”
- 10. 「有」を使った文・数量（第8課）
- 11. “ ”
- 12. 時刻の表現（第9課）
- 13. “ ”
- 14. 動詞の「在」と介詞の「在」（第10課）
- 15. 試験

**5. 評価方法・基準**

定期試験70%、平常点30%。合計60点以上を合格とする。  
平常点は、出席状況・小テスト・受講状況で評価する。

**6. 履修上の注意点**

全講義回数の2/3以上出席していなければ、自動的に単位取得資格を失う。

履修上の細かな注意点について、第1回の講義時に説明するので、必ず出席すること。

**7. 教科書・参考書**

教科書：『初めての中国語コミュニケーション』（同学社、高橋良行他著）

**8. オフィスアワー等**

連絡先は、人文科学事務室にたずねること。

**基礎中国語 B** Basic Chinese B

電気電子工学科、総合システム工学科 2年次 前期または後期 選択必修 1単位

担当教員 未定

**1. 概要**

隣国中国との関係は近年ますます深いものとなり、学生諸君それぞれが、将来かなり高い確率で中国と何らかの関わりを持つであろうことが予想される時代である。履修者はそのような将来を見据えて、各人しっかりと目的意識を持って授業に臨むことが重要である。

とはいえ、一つの言語をそう簡単に習得できるはずがないこともまた事実である。「中国語は同じ漢字を使う言語なので、履修しやすい」ということに甘えていては、上達は難しいだろう。本講義は、すでに習得した発音、基礎的な文法を復習し、「ことば」として使うことができるよう繰り返し練習する。まずは中国語を使うことに慣れ、自分の「中国語力」のレベルをたかめて、次のステップへつなげる足がかりとしてほしい。

**2. キーワード**

中国 外国語 異文化

**3. 到達目標**

- ⑤ 発音を正確にマスターする
- ⑥ 基礎的な文法をマスターする
- ⑦ 使えるようにする
- ⑧ 中国に対する知識を増やす

**4. 授業計画**

- 1. 受講のためのガイダンス・発音の復習（第1課～3課「まとめ」）
- 2. 「是」を使った述語文（第4課）
- 3. “ ”
- 4. 量詞・指示代名詞（第5課）
- 5. “ ”
- 6. 形容詞述語文（第6課）
- 7. “ ”
- 8. 動詞述語文（第7課）
- 9. “ ”
- 10. 「有」を使った文・数量（第8課）
- 11. “ ”
- 12. 時刻の表現（第9課）
- 13. “ ”
- 14. 動詞の「在」と介詞の「在」（第10課）
- 15. 試験

**5. 評価方法・基準**

定期試験70%、平常点30%。合計60点以上を合格とする。  
平常点は、出席状況・小テスト・受講状況で評価する。

**6. 履修上の注意点**

全講義回数の2/3以上出席していなければ、自動的に単位取得資格を失う。

履修上の細かな注意点について、第1回の講義時に説明するので、必ず出席すること。

**7. 教科書・参考書**

教科書：『初めての中国語コミュニケーション』（同学社、高橋良行他著）

**8. オフィスアワー等**

連絡先は、人文科学事務室にたずねること。

## 基礎中国語 B Basic Chinese B

応用化学科、マテリアル工学科 2年次 前期または後期 選択必修 1単位

担当教員 未定

## 1. 概要

隣国中国との関係は近年ますます深いものとなり、学生諸君それぞれが、将来かなり高い確率で中国と何らかの関わりを持つであろうことが予想される時代である。履修者はそのような将来を見据えて、各人しっかりした目的意識を持って授業に臨むことが重要である。

とはいえ、一つの言語をそう簡単に習得できるはずがないこともまた事実である。「中国語は同じ漢字を使う言語なので、履修しやすい」ということに甘えていては、上達は難しいだろう。本講義は、すでに習得した発音、基礎的な文法を復習し、「ことば」として使うことができるよう繰り返し練習する。まずは中国語を使うことに慣れ、自分の「中国語力」のレベルをたかめて、次のステップへつなげる足がかりとしてほしい。

## 2. キーワード

中国 外国語 異文化

## 3. 到達目標

- ⑤ 発音を正確にマスターする
- ⑥ 基礎的な文法をマスターする
- ⑦ 使えるようにする
- ⑧ 中国に対する知識を増やす

## 4. 授業計画

1. 受講のためのガイダンス・発音の復習（第1課～3課「まとめ」）
2. 「是」を使った述語文（第4課）
3. “ ”
4. 量詞・指示代名詞（第5課）
5. “ ”
6. 形容詞述語文（第6課）
7. “ ”
8. 動詞述語文（第7課）
9. “ ”
10. 「有」を使った文・数量（第8課）
11. “ ”
12. 時刻の表現（第9課）
13. “ ”
14. 動詞の「在」と介詞の「在」（第10課）
15. 試験

## 5. 評価方法・基準

定期試験70%、平常点30%。合計60点以上を合格とする。  
平常点は、出席状況・小テスト・受講状況で評価する。

## 6. 履修上の注意点

全講義回数の2/3以上出席していなければ、自動的に単位取得資格を失う。

履修上の細かな注意点について、第1回の講義時に説明するので、必ず出席すること。

## 7. 教科書・参考書

教科書：『初めての中国語コミュニケーション』（同学社、高橋良行他著）

## 8. オフィスアワー等

連絡先は、人文科学事務室にたずねること。

## 選択中国語 A Elective Chinese A

全学科 2年次 前期 選択 1単位

担当教員：一木 達彦

## 1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができよう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

## 2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

## 3. 到達目標

中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語の会話能力を養っていく。あわせて中国理解を深める。

## 4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 発音1
- 第3回 発音2
- 第4回 第1課
- 第5回 第2課
- 第6回 第3課
- 第7回 復習
- 第8回 第4課
- 第9回 第5課
- 第10回 第6課
- 第11回 復習
- 第12回 第7課
- 第13回 第8課
- 第14回 第9課
- 第15回 試験

## 5. 評価方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）  
60点以上を合格とする。

## 6. 履修上の注意事項

履修者が各クラスにつき50人以上に達した場合、抽選を行うので、履修希望者は前期の第一日目の授業時に、必ず出席すること。出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

## 7. 教科書・参考書

教科書：《最新版》中国語ははじめの一步 竹島金吾・尹景春・竹島毅 白水社

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社

## 8. オフィスアワー等

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

**選択中国語 A** Elective Chinese A

全学科 2年次 前期 選択 1単位

担当教員：板谷 秀子

**1. 概要**

外国語としての中国語を習得する。文字表現として漢字を使うが、源と支流では大差あり。差異をみつけることで学習を進める。発音は、日本語の音読みと全く異なるのでゼロからの出発。中国語の流れるような音に慣れれば、練習を重ねるだけで必ず上達する。

**2. キーワード**

継続は力なり。

**3. 到達目標**

正しい声調・標準語の発音

**4. 授業計画**

1. 中国語とは：概説
2. 発音の基礎①声調
3. 発音の基礎②母音
4. 発音の基礎③子音
5. 発音の基礎④子音
6. 数の表現：テキスト第1課
7. 疑問文：テキスト第2課
8. 動詞文：テキスト第3課
9. 形容詞文：テキスト第4課
10. 助動詞：テキスト第5課
11. 前置詞：テキスト第6課
12. 応用会話：テキスト第7課
13. 応用会話：テキスト第8課
14. 総復習
15. 定期考査

**5. 評価方法**

基準

定期試験90%、平常点10%、60点以上を合格とする

**6. 履修上の注意事項**

出席重視、2/3以上の出席必須

**7. 教科書**

『念念説説』(光生館)

**選択中国語 B I** Elective Chinese BI

全学科 2年次 前期 選択 1単位

担当教員：一木 達彦

**1. 概要**

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができよう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

**2. キーワード**

中国、国際性、異文化理解、言語

**3. 到達目標**

中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語の基礎文法事項を中心に学んでいく。あわせて中国理解を深める。

**4. 授業計画**

- 第1回 中国語概説
- 第2回 発音
- 第3回 第1課
- 第4回 復習
- 第5回 第2課
- 第6回 復習
- 第7回 第3課
- 第8回 復習
- 第9回 第4課
- 第10回 復習
- 第11回 第5課
- 第12回 復習
- 第13回 第6課
- 第14回 復習
- 第15回 試験

**5. 評価方法・基準**

定期試験 (70%)、小テスト・出席点 (30%)

60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

履修者が各クラスにつき50人以上に達した場合、抽選を行うので、履修希望者は前期の第一日目の授業時に、必ず出席すること。出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

**7. 教科書・参考書**

教科書：1冊めの中国語《講読クラス》 劉穎・喜多山幸子・松田かの子 白水社

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社

**8. オフィスアワー等**

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

## 選択中国語 B II Elective Chinese BII

全学科 2年次 後期 選択 1単位

担当教員：一木 達彦

### 1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができよう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

### 2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

### 3. 到達目標

中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語の基礎文法事項を中心に学んでいく。あわせて中国理解を深める。

### 4. 授業計画

- 第1回 復習
- 第2回 第7課
- 第3回 復習
- 第4回 第8課
- 第5回 復習
- 第6回 第9課
- 第7回 復習
- 第8回 第10課
- 第9回 復習
- 第10回 第11課
- 第11回 復習
- 第12回 第12課
- 第13回 復習
- 第14回 第13課
- 第15回 試験

### 5. 評価方法・基準

定期試験(70%)、小テスト・出席点(30%)

60点以上を合格とする。

### 6. 履修上の注意事項

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

### 7. 教科書・参考書

教科書：1冊めの中国語《講読クラス》 劉穎・喜多山幸子・松田かの子 白水社

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社

### 8. オフィスアワー等

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

## 選択中国語 B II Elective Chinese BII

全学科 2年次 後期 選択 1単位

担当教員 板谷 秀子

### 1. 概要

中国語初級の仕上げのステップを履修する。中国語検定試験三級合格を目標とする。応用会話を反復練習し、ヒアリング力を高めたい。

### 2. キーワード

継続は力なり

### 3. 到達目標

日常会話のヒアリング力を高める

### 4. 授業計画

- 10. 初級の発音の基礎・文法力のウォーミング・アップ
- 11. 数の表現 ポイント学習 テキスト第一課・第二課
- 12. 疑問文 ポイント学習 テキスト第二課 第三課
- 13. 動詞文 ポイント学習 テキスト第五課
- 14. 形容詞文・比較文のポイント学習 テキスト第六課
- 15. 助動詞 ポイント学習 テキスト第七課
- 16. 街角の会話：道順を尋ねる テキスト第八課
- 17. 応用会話：趣味 テキスト第九課
- 18. 応用会話：旅行 テキスト第十課
- 10. 応用会話：ホテル予約 テキスト第11課
- 11. 応用会話：レストラン テキスト第12課
- 12. 応用会話：把構文 テキスト第13課
- 13. 応用会話：観劇 テキスト第14課
- 14. 総復習
- 15. 定期考査

### 5. 評価方法

基準

定期試験90%、平常点10%、60点以上を合格とする。

### 6. 履修上の注意事項

出席重視、2/3以上の出席必須。

### 7. 教科書・参考書

教科書：『念念説説』（光生館）

ロシア語 A I Russian A I

全学 第2年次 前期 選択 1単位

担当教員 Shestakova Natalya

1. 講義概要

はじめに個々の文字と発音を学習し、単語のアクセントと短い文のイントネーションを正しく習得する。日常生活で多用される表現を中心に、ロシア語の基本文型に習熟して、発話能力を高めるよう反復練習する。教科書のほかにも、プリント教材を使って、現代ロシア人の生活や文化も紹介していきたい。

2. キーワード

ロシア語、ロシア人の生活や文化、コミュニケーション

3. 到達目標

この講義の目的は全ての四つの基本的な言語熟練（聞くこと、読むこと、話すこと及び書くこと）の調和的な発展です。文法事項は用語練習で習得されています。

4. 授業計画

- 第1回 テーマ「ロシア語とはどんな意味？」母音と母音文字
- 第2回 テーマ「ロシア語のアルファベット①」子音①
- 第3回 テーマ「ロシア語のアルファベット②」子音②
- 第4回 テーマ「発音」単語のアクセント
- 第5回 テーマ「短文のイントネーション」簡単な問いと答え
- 第6回 テーマ「第1課①」挨拶、交際
- 第7回 テーマ「第1課②」ロシア人の名前、国名  
(名詞の単数と複数)
- 第8回 テーマ「第1課③」単語テストと会話
- 第9回 テーマ「第2課①」教室でのロシア語  
(動詞の人称変化形)
- 第10回 テーマ「第2課②」趣味(名詞の対格)
- 第11回 テーマ「第2課③」単語テストと会話
- 第12回 テーマ「第2課④」練習問題と会話
- 第13回 テーマ「第1課と第2課の応用」練習と会話
- 第14回 テーマ「第1課と第2課の応用」練習と会話

前学期末試験

5. 評価方法・基準:

各学期末の試験に平素の学習状況を加えて評価する。

6. 受講上の注意

教科書とノートを必ず持参すること。20分以上の遅刻厳禁。

7. 教科書・参考書

教科書 戸辺又方「一年生のロシア語」白水社

参考書 安藤厚「ロシア語ミニ辞典」白水社

8. オフィスアワー等

ロシア語 A II Russian A II

全学 第2年次 後期 選択 1単位

担当教員 Shestakova Natalya

1. 講義概要

はじめに個々の文字と発音を学習し、単語のアクセントと短い文のイントネーションを正しく習得する。日常生活で多用される表現を中心に、ロシア語の基本文型に習熟して、発話能力を高めるよう反復練習する。教科書のほかにも、プリント教材を使って、現代ロシア人の生活や文化も紹介していきたい。

2. キーワード

ロシア語、ロシア人の生活や文化、コミュニケーション

3. 到達目標

この講義の目的は全ての四つの基本的な言語熟練（聞くこと、読むこと、話すこと及び書くこと）の調和的な発展です。文法事項は用語練習で習得されています。

4. 授業計画

前学期末試験

- 第1回 テーマ「第3課①」家族の紹介(名詞の前置格)
- 第2回 テーマ「第3課②」職業(形容詞)
- 第3回 テーマ「第3課③」練習問題と会話
- 第4回 テーマ「第3課④」単語テストと会話
- 第5回 テーマ「第4課①」一日の生活(動詞の過去)
- 第5回 テーマ「第4課②」時間表現
- 第6回 テーマ「第4課③」訪問(動詞の体)
- 第7回 テーマ「第4課④」単語テストと会話
- 第8回 テーマ「第5課①」余暇(動詞の未来形)
- 第9回 テーマ「第5課②」時を表す副詞、曜日名
- 第10回 テーマ「第5課③」訪問(動詞の命令形)
- 第11回 テーマ「第5課④」単語テストと会話
- 第12回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話
- 第13回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話
- 第14回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話

後学期末試験

5. 評価方法・基準:

各学期末の試験に平素の学習状況を加えて評価する。

6. 受講上の注意

教科書とノートを必ず持参すること。20分以上の遅刻厳禁。

7. 教科書・参考書

教科書 戸辺又方「一年生のロシア語」白水社

参考書 安藤厚「ロシア語ミニ辞典」白水社

8. オフィスアワー等

## 選択韓国（朝鮮）語 A I Elective Korean A I

全学科 第2年次 前期 選択 1単位

担当教員 桂 林春

### 1. 講義概要

本講義では、韓国（朝鮮）語の基本的な「文字」と「正確な発音」の習得が第一の目標となります。韓国語と日本語の語順はよく似ているため、日本語話者にとって、学習しやすいといわれますが、発音、文字等は似ても似つかない部分も多く、特に初級の段階では他の言語と比べても容易であるとはいえないです。そのため、授業の進行は受講生の理解度に応じたペースで進めていきますが、ほぼ毎回宿題や小テストを実施します。この講義を通じて、韓国語、韓国文化への知識や理解を深めてほしいです。

### 2. キーワード

ハングル、韓国（朝鮮）語、韓国の文化

### 3. 到達目標

①韓国語の文字と発音の習得、②基礎的な文法の学習、③韓国文化への理解

### 4. 授業計画

- ・オリエンテーション
- ・母音 1、2
- ・子音 1、2
- ・終声子音（バッチム） 1、2
- ・発音の仕組み（法則） 1、2
- ・やさしい会話 1、2、3
- ・基本文型 1、2

以上の順序で進めながら、時折韓国文化に関する資料や映像の紹介もしていきます。

### 5. 評価方法・基準：

①定期試験、②出席、③宿題及び小テストによる総合評価

### 6. 受講上の注意

「楽しく学ぶ」ことがモットの授業を目指します。そのためには、受講生皆さんの努力や協力が大事です。また新しい言語を学ぶには、沢山の興味と、ある程度の情熱や覚悟が必要です。授業で課せられる宿題（予習及び復習）、小テストなどが苦にならない、ヤル気ある学生の受講を望みます。

### 7. 教科書・参考書

桂林春・桂文姫 「レッスン韓国語」ハナ出版社  
（教科書に関しては、第一回目の授業で紹介します。）

### 8. オフィスアワー等

## 選択韓国（朝鮮）語 A II Elective Korean A II

全学科 第2年次 後期 選択 1単位

担当教員 桂 林春

### 1. 講義概要

基本的には前期の「選択韓国（朝鮮）語 A I」の続きとして進めていきます。

授業では、韓国（朝鮮）語の読み、書き、話すことができるための基礎的な能力を養います。

ハングルの正確な発音に重点をおきながら、基本文型、文法、身近な日常会話を習得します。

### 2. キーワード

ハングル、韓国語の発音、韓国の文化

### 3. 到達目標

①基礎的な文型及び文法の学習、②やさしい日常会話の習得、③韓国文化への理解

### 4. 授業計画

- ・オリエンテーション
- ・基本文型 1、2、3
- ・数字 1、2
- ・やさしい会話 1、2
- ・助詞 1、2、3
- ・楽しい会話 1、2
- ・過去形
- ・尊敬系
- ・連体形

以上の順序で進めながら、時々韓国文化に関する資料にも触れていきます。

### 5. 評価方法・基準：

①定期試験、②出席、③宿題と小テストによる総合評価。

### 6. 受講上の注意

選択韓国（朝鮮）語 A I 参照。

### 7. 教科書・参考書

桂林春・桂文姫 「レッスン韓国語」ハナ出版社

### 8. オフィスアワー等

E-mil:gyelc 0926@yahoo.co.jp